

教員養成教育認定評価

自己分析書

(中間報告)

令和2年1月

岡山大学教育学部

# 目次

I	教員養成機関の現況及び特徴	1
II	教員養成機関の目的	4
III	基準領域ごとの自己分析	
	基準領域 1 構成員の合意に基づく主体的な教員養成教育の取り組み	6
	基準領域 2 教職を担うべき適切な人材の確保	16
	基準領域 3 教職へのキャリア・サポート	21
	基準領域 4 大学教育の一環としての教員養成カリキュラムの運営	27
	基準領域 5 子どもの教育課題と大学教育との関連づけ	33
IV	自己分析書の作成過程	39

※この教員養成教育認定評価自己分析書は、簡易且つ効果的・継続的な外部評価の実施を試みるため、平成 27 年 7 月、教員養成評価機構に提出された同書に、その後の変化や成果を盛り込み、改訂する形で作成されたものである。したがって、本自己分析書は、今後の岡山大学教育学部における教員養成の在り方を検討し、具体的な改革を進めていくための問題把握を主な目的としており、それに基づく改革の成果を含めた外部評価の受審に向けた「中間報告」と位置づけられる。

## I 教員養成機関の現況及び特徴

### 1 現況

(1) 教員養成機関（学部）名：岡山大学教育学部

(2) 所在地：岡山県岡山市北区津島中3-1-1

(3) 学生数及び教員数（令和元年9月30日現在）

学生数 1,168人

教員数 110人（うち、岡山県並びに岡山市教育委員会, JICA との交流人事による教員3人）

### 2 特徴

#### (1) 沿革

岡山大学教育学部の歴史を概観すると以下のようになる。

##### ① 拡大期

岡山大学教育学部は、1949（昭和 24）年に、岡山大学の創設と同時に設置された。当初、小学校教員養成課程と中学校教員養成課程でスタートしたが、1954（昭和 28）年には特別教科（美術・工芸）教員養成課程、1966（昭和 40）年には養護学校教員養成課程、1967（昭和 41）年には幼稚園教員養成課程、1979（昭和 53）年には養護教諭養成課程、さらに1989（平成元）年には総合教育課程を設置することによって充実を図り、岡山県内外の教育界を中心に数多くの有能な人材を輩出してきた。

##### ② 縮小期

1997（平成 9）年には、当時の文部省より国立大学教員養成課程の入学定員 5,000 人削減計画が打ち出され、それを受けて、1999（平成 11）年には、幼稚園教員養成課程（20 人）、小学校教員養成課程（150 人）、中学校教員養成課程（70 人）、特別教科（美術・工芸）教員養成課程（20 人）及び養護学校教員養成課程（20 人）を統合して学校教育教員養成課程（170 人）を設置する改組を行った。これにより、学部は、学校教育教員養成課程、養護教諭養成課程（40 人→30 人）及び総合教育課程（60 人→80 人）の 3 課程（280 人）から構成されることとなり、入学定員も 380 人から 100 人を削減した 280 人となった。

##### ③ 充実期

2000（平成 12）年には、国立の教員養成大学・学部の在り方に関する懇談会が設置され、翌年、その後の国立の教員養成系大学・学部の在り方が示された。さらに 2001（平成 13）年には、文部科学省から、「大学（国立大学）の構造改革の方針」が出され、教員養成系学部の縮小・再編が求められた。これらを受けて、2006（平成 18）年には、全国の教員養成系大学・学部在先駆けて、総合教育課程（80 人）を廃止し、学校教育教員養成課程（170 人→250 人）と養護教諭養成課程（30 人）の 2 課程（280 人）から構成される、教員養成に特化した学部へ再編した。学校教育教員養成課程には、学校種ごとのコース（小学校教育コース、中学校教育コース、幼児教育コース、特別支援教育コース）を設け、現在に至っている。

以上のような歴史を持つ岡山大学教育学部は、現在、教員の協働的な研究に基づいて教員養成を行っていること並びに学生の協同的な学びによって教員に求められる資質・能力の向上を図っていることを特徴とした活動を行っている。

## (2) 特徴1：教員の協働的研究に基づく教員養成教育

本学部の特徴は、多様な専門性を有する教員の協働的研究に基づく組織的な教員養成教育の実現である。具体的には、以下のような取り組みを挙げることができる。

### ① 教員養成コア・カリキュラム

2003（平成15）年に、カリキュラム開発を専門とする、教科教育と教科専門の教員が協働して、求められる教師像、育てたい教師像を明確にした上で、教育実習と体験的授業科目をコアとした「教員養成コア・カリキュラム」を構築した。これは、大学での授業による学びと教育実習等の実践的活動を往還させながら教育実践力を養成するものであり、2006（平成18）年度入学生から実施した。2010（平成22）年度に授業科目の追加や開講期変更などを行ったが、2014（平成26）年度末には学部・大学院改組委員会を組織し、現在、第3期中期目標期間中のコア・カリキュラムと教育組織の見直しに向けた問題把握と検討を継続的に行っている。

### ② 教師教育開発センターとの協働とカリキュラムの改善・充実

2010（平成22）年には、教育学部附属教育実践総合センターを改組して、全学の教職課程認定7学部における教員養成教育の質を保証するための全学センター「教師教育開発センター」を設置した。教師教育開発センターには、教師教育開発部門、教職支援部門、教職コラボレーション部門及び理数系教員養成事業部門を置き、教育学部との緊密な協働体制のもと、教育学部における教員養成教育研究の成果に基づきながら、全学教職課程カリキュラムの構築とともに、教育学部における実習系カリキュラムの改善・実施に取り組んできた。特に、4年次に開講された「教職実践演習」のフィールドワークとして、長期分散型の「教職実践インターンシップ」を必修化するなど、実践的な指導力の計画的な育成に努めている。

### ③ 教科内容構成の授業づくり

2011（平成23）年からは、文部科学省特別経費（プロジェクト分）による「教員の資質向上に寄与する『大学と学校・教育委員会の協働』の実現」事業を展開し、大学と教育委員会がそれぞれに担ってきた教員養成と現職教員研修の役割分担を超えて、「大学と学校・教育委員会の協働」に基づく教員の資質・能力の育成・向上に取り組んでいる。具体的には、教員の資質向上に資する仕組みの創造を目指して、「学校課題解決のためのオンデマンド研修とインターンシップ実習の連動事業」並びに教科専門と教科教育を架橋する領域として教科内容構成に関する指導内容を全ての授業の中に組み込んで指導する「教科構成学開発事業」を行ってきた。その成果は、「内容構成」を名称に付した各教科に関する授業科目を開設するなど、教育職員免許法改正を踏まえた2019（令和元）年のカリキュラム改編に反映されている。

### ④ 教員としての学びのプロセスに着目した地域教育専修等の設置

学校と地域を活性化する地域学校協働の観点から、岡山県教育委員会と連携しつつ、岡山県北の学校現場と地域をフィールドとした教員養成を行う地域教育専修を2018（平成30）年4月に設置した。これは、教育学部とともに学校並びに市町村教育委員会が教員養成の主体となり、学生が、学校や地域が抱える教育課題を意識しながら自らの学びを能動的・協働的に振り返ることで、教員に必要な資質・能力を育成しようとするものである。別な言い方をすれば、教科・教職に関する専門的な知識・技能や経験の単なる積み増しにとどまらない、学生の学びのプロセスに着目した教員養成教育を研究的な視座から提案しようとする試みであり、その成果を学部全体に広げ還元することを目指している。

### (3) 特徴2：学生の協同的学びの展開

本学部のもう一つの特徴は、学生が協同的な学びによって、教員になるための資質・能力の向上に努めていることである。具体的には、以下のような取り組みを挙げることができる。

#### ① 各教科等の専修における学年内並びに学年等を越えた協同的学び

教育学部では、学生が分属している各教科等の専修が指導・学修の基礎単位となっているが、学生室やリフレッシュ・コーナーなど学生が自由に活用することができる学部内のスペースにおいて、専修や学年を越えた自発的な学修が行われている。この背景には、日常的な授業等において、教員が、専修や学年を越えた協同的な学びを促す指導・助言を意図的に行っていることがある。例えば、附属学校園における教育実習生による研究授業については、学年を越えて多くの学生が相互に参観した後、授業検討会において意見交換を行う機会が設けられている。また、指導案の作成、マイクロティーチングの実施、及び授業実践の振り返りにおいて、大学院学生、4年次学生も一緒になって異学年構成グループが形成され、協同的な学びが展開されている。さらに、教職大学院の現職教員等との協同的学びも実質的に拡大している。

#### ② 「教職実践演習」等における各教科等の専修内並びに専修を越えた協同的学び

「教職実践演習」は、各教科等の専修単位での授業と、「教職実践演習」のフィールドワークとして設定された公立学校園における「教職実践インターンシップ」の配属校単位での授業によって構成されている。いずれの授業においても、その運営は学生が主体となっており、教員は、学生による互いの学び合いを支援する形を取っている。「教職実践インターンシップ」でも、専修を越えた配属によって、「チームとしての学校」を担う同僚としての意識が芽生え、学校の教育活動に組織的に取り組んでいこうとする態度が養われている。

#### ③ アクティブ・ラーニングの促進を意図した授業実践・改善を踏まえた協同的学び

2016（平成28）年度から全学の学士課程教育において、学生の修学時間の確保や入学から卒業までの教育の体系的再構築などを意図した60分授業・4学期制が導入された。これは、複数の教職課程を有する教育学部にとって、時間割編成にかかる困難等を生じさせるが、学部の授業における教育方法・指導の改善を一層進め、学生の自主的な学修を強化・充実させる契機とするための様々な研修に取り組んでいる。このことにより、教育学部の多くの授業でアクティブ・ラーニングの促進が図られ、課程や専修等を越えた学生同士の「関わり合い」が日常的・継続的に行われている。こうした授業実践・改善が、学生の協同的学びを実現するための基礎的な条件の一つとなり、同僚性に基づく学校組織文化の醸成に資する教員としての姿勢が育まれている。

これらの前提として、岡山大学教育学部は、岡山県・岡山市教育委員会と緊密に連携・協力しつつ、附属学校園や教育学研究科（教職大学院・修士課程）と一体的に教育研究活動に取り組むことができる組織となっている。さらに、岡山大学教師教育開発センター、兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科（博士課程）、（独）教職員支援機構岡山大学センターなどと協働する体制が形づくられている。こうした教員養成・現職研修に関する総合的な拠点を構成する位置づけが、教育学部の教育研究活動を支える組織上の特徴として挙げられる。

## II 教員養成機関の目的

岡山大学教育学部では、教育は人間の可能性を最大限に伸ばすものと考えて、教育に関する理論と実践を教授・研究する中から、広く教育現場で活躍できる創造性豊かな人材を養成することを目的としている。学校教育教員養成課程は、教育の重要な場としての役割を持つ学校（幼稚園、小学校、中学校及び特別支援学校）に、幅広い視野と行動力を持った教師を送り出すことを目指している。養護教諭養成課程は、教育の場において、子どもたちの健康づくりを通して成長を支援する養護教諭を育てることを目指している。

### 1 大学の学士課程教育の理念に沿った教員養成

岡山大学では、卒業時に学生に保証すべき学士力を、【教養】【専門性】【情報力】【行動力】【自己実現力】の5つの面から捉え、ディプロマ・ポリシーを設定している。教育学部では、大学全体のディプロマ・ポリシーに掲げられた【教養】【専門性】【情報力】【行動力】【自己実現力】を、教師に欠かせない要素として捉え直し、以下のようなディプロマ・ポリシーを設定している。

#### ① 人間性に富む豊かな教養【教養】

自然・社会・人間にかかわる多様な問題に対して関心を持ち、主体的な問題解決に向けての論理的思考力・判断力・創造力を有し、先人の足跡に学び、人間性や倫理観に裏打ちされた豊かな教養を身につけている。

#### ② 教師としての専門性【専門性】

教育科学や専門諸科学に関する知識と技術を幅広く習得し、反省的・創造的に教育活動に取り組むための基盤となる教育実践力をバランスよく身につけている。

#### ③ 効果的に活用できる情報力【情報力】

子どもと学校及びそれらを取り巻く環境に関する情報を必要に応じて自ら収集・分析し、正しく活用できる能力を有するとともに、効果的に情報発信できるだけでなく、情報モラルの指導ができる。

#### ④ 時代と社会をリードする行動力【行動力】

グローバル化に対応した国際感覚や言語力とともに、社会人そして教師として必要とされるコミュニケーション能力を有し、地球規模から地域社会に至る共生のための的確に行動できる。

#### ⑤ 生涯にわたる成長と自己実現力【自己実現力】

子どもたちとのふれあいやスポーツ・文化活動など多様な経験を通して、自立した個人として日々を享受するとともに、教師として主体的に学び続け、生涯にわたって自己の成長を追求できる。

### 2 教師としての専門性としての「教育実践力」

教育学部では、以上の学士力の基盤の上に、教師としての専門性としての「教育実践力」を培うため、課程やコースごとに目指すべき教師像に沿ったカリキュラム・ポリシーを設定している。これに基づき、教育実習と体験的授業科目をコアとしつつ、教員として必要な基礎的知識や技能を教授する授業科目を系統的に配置し、それら相互の関連性を確保した「教員養成コア・カリキ

ュラム」によって、以下の「教育実践力」を構成する4つの力を形成することを目的としている。

- ① 学習指導力（子どもの学習を指導する力量）
- ② 生徒指導力（子どもの生活を指導する力量）
- ③ コーディネート力（家庭・地域・同僚・諸専門家と協働する力量）
- ④ マネジメント力（教師として必要なマネジメントの力量）

なお現在、大学機関別認証評価に向け、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、及びアドミッション・ポリシーの内容については、現行を踏まえつつ、一貫性や整合性等に関わる再確認の作業を進めている。

### 3 今後の改善・変革に向けた課題

こうした目的を掲げる岡山大学教育学部は、幼稚園教諭、小学校教諭、中学校教諭（全10教科）・高等学校教諭、特別支援学校教諭及び養護教諭を養成する「フル規格の教育学部」として、地域に優れた教員を輩出する使命・役割を担っている。その際、教員の協働的な研究と学生の協働的な学びを促進・支援することにより、絶えず自らの授業・指導を振り返り、その改善・変革に同僚とともに主体的・能動的に取り組むことのできる教員に求められる基礎的な資質・能力を育成していく方針を維持することとしている。

ただし、これまでの教育学部の取り組みについては、必ずしも教育学部全体で推進していくことができているわけでない。「I 教員養成機関の現況及び特徴」で挙げた具体的な取り組みも、それぞれ担当する教員が意識的・自覚的に実施しているものの、教育学部として組織的に実質化されているかという点からすれば、いまだ不十分であるといえる。これは、個々の教員による教員養成に関する教育研究活動が、一つ一つの授業や各専修などの枠の中に留まっており、教育学部として把握・分析され、組織的な改善・変革につながるものとなっていないことをあらわしている。

こうした課題の解決には、すべての教員が教育学部の現状を多面的・総合的に理解するための計画的なFDが必要である。教育学部は、附属学校園や教育学研究科（教職大学院・修士課程）だけでなく、岡山県・岡山市教育委員会、教師教育開発センター、（独）教職員支援機構岡山大学センターなどとの連携・協力関係が築かれており、これらの組織・機関によるFDが有効といえる。その上で、多様な専門性を有する教員の協働的研究に基づく組織的な教員養成を実現する観点から、教育学部のカリキュラムなど教員養成に関する取り組みそれ自体を共同研究のテーマとして設定し、その成果を積極的に全国に発信していくことが考えられる。これにより、教育学部の教育活動について、研究的な視座から組織的かつ継続的な分析・評価を行い、「フル規格の教育学部」として不断の改善・変革につなげていくこととしたい。

### Ⅲ 基準領域ごとの自己分析

#### 基準領域1 構成員の合意に基づく主体的な教員養成教育の取り組み

##### 1 基準ごとの分析

##### 基準1-1 [教員養成教育に対する理念の共有]

- 各教員養成機関は、「教員となり得る人材を養成する」ことを、機関の教育目標のひとつに適切に位置づけるとともに、その理念を構成員が共通理解するための手立てを講じていること

[基準に係る状況]

##### ① 教員養成を中核に据えた理念と目的

教育学部は、教育の理論及び実際を教授研究し、学校教育の分野をはじめとして広く教育現場で活躍する有為な人材を養成することを目的としている。具体的には、教育学部ディプロマ・ポリシー（DP）に掲げられている通り、「人間性に富む豊かな教養」「教師としての専門性」「効果的に活用できる情報力」「時代と社会をリードする行動力」「生涯にわたる成長と自己実現力」をもった、教員をはじめとする有為な人材の育成である。さらに、この教育学部ディプロマ・ポリシーを踏まえ、課程（コース）ごとに育成する人材像が明示されている（資料1-1-1）。

##### ○教育学部ディプロマ・ポリシー

##### 人間性に富む豊かな教養【教養】

自然・社会・人間にかかわる多様な問題に対して関心を持ち、主体的な問題解決に向けての論理的思考力・判断力・創造力を有し、先人の足跡に学び、人間性や倫理観に裏打ちされた豊かな教養を身につけている。

##### 教師としての専門性【専門性】

教育科学や専門諸科学に関する知識と技術を幅広く習得し、反省的・創造的に教育活動に取り組むための基盤となる教育実践力をバランスよく身につけている。

##### 効果的に活用できる情報力【情報力】

子どもと学校及びそれらを取り巻く環境に関する情報を必要に応じて自ら収集・分析し、正しく活用できる能力を有すると共に、効果的に情報発信できるだけでなく、情報モラルの指導ができる。

##### 時代と社会をリードする行動力【行動力】

グローバル化に対応した国際感覚や言語力とともに、社会人そして教師として必要とされるコミュニケーション能力を有し、地球規模から地域社会に至る共生のために、的確に行動できる。

##### 生涯にわたる成長と自己実現力【自己実現力】

子どもたちとのふれあいやスポーツ・文化活動など多様な経験を通して、自立した個人として日々を享受するとともに、教師として主体的に学び続け、生涯にわたって自己の成長を追求できる。

##### ② 共同研究及びFD研修会を通しての理念共有の取り組み

教育学部は教員養成を目的とする学部であり、恒常的かつ組織的な共同研究を通じて、自らの



理念の共有を行ってきた。特に、2011（平成23）年度に開始した先進的教員養成プロジェクトにおける「教科内容構成学」の構築は、学部の理念をコア・カリキュラムで具現化していくものであった。この取り組みは、定期的に開催している教職並びに教科の専門科目のあり方についての学部・研究科FD研修会でも報告され、教育学部の理念・目的について全教員に再確認を促す機会となってきた。また、各教員が担当している個々の授業を教科内容構成の視点から捉え直し、それを共有していくために講座単位で毎年実施している授業公開・意見交換会は、すべての教員が、教育学部の理念・目的及びそれを実現すべき教職・教科専門科目のあり方に関する理解の深化を促す場となってきた（資料1-1-2）。

### ③「ポートフォリオ」を介した教員・学生の相互確認・共有の仕組み

『教職実践ポートフォリオ』を作成し、教育学部の理念、特に、それぞれの課程・コースで育成されるべき4つの力（学習指導力、生徒指導力、コーディネート力、マネジメント力）から構成される教育実践力の具体的な内容について、学生とともに指導教員も確認し振り返る機会を設定している。具体的には、1年次から各学年に担当されている教育実習時に、教育学部の理念や4つの力などに係る学生の自己評価に対して、「教科内容構成」研究の成果を踏まえて指導教員としてコメントすることにより、4つの力の内実についての理解を深めるとともに、新たな視点から実践的指導力の考究に努めている（資料1-1-3）。

### ④ 教職実践演習による理念の共有と具現化

4年次に通年で開講される「教職実践演習」では、教育学部全体だけでなく、各講座においても毎年ローテーションで2～4名の教員が必ず担当する体制を整えている。その具体的な授業内容としては、学生と担当教員全員が参加する全体会、各講座（専修）あるいはインターンシップ配属校（公立の幼稚園・小学校・中学校等）別の演習の二種類の授業によって構成され、とりわけ講座や配属校別の演習において各講座から選出された教員が必ずそれぞれの課程・コース・専修等で育成されるべき教員としての4つの力について理解を深めることができるよう工夫されている（資料1-1-4）。

このような取り組みを通して、教育学部の教員養成の理念（目的）の共有を図るのみならず、共有された理念（目的）を各講座（専修）や教員の授業実践として具現化することに努めてきた。

【総評】教育学部は、「広く教育現場で活躍する有為な人材」の養成を理念として掲げ、教員による共同研究・FD研修会や学生に対する実習指導等を通じて、すべての教員が理念を共有しようと努めてきたことから、基準1-1を「十分に満たしている」と評価できる。

#### 《根拠となる資料・データ等》

〔資料1-1-1〕岡山大学教育学部ディプロマ・ポリシー

URL：<http://www.okayama-u.ac.jp/tp/profile/dp-edu.html>

〔資料1-1-2〕FD研修会開催記録・授業公開の記録（FD委員会の年次活動報告）

〔資料1-1-3〕教職実践ポートフォリオ（第2版）

〔資料1-1-4〕2019年度「教職実践演習」ハンドブック

## 基準1-2 [教職課程のカリキュラム編成の工夫]

- 各教員養成機関は、一貫性のあるアドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーのもとに、主体的に教員養成カリキュラムを編成していること

### [基準に係る状況]

- ① 求める人材像を明確に示したアドミッション・ポリシー

教育学部は、入学者受入の方針として、次のような教育学部アドミッション・ポリシー（AP）を定めるとともに、課程（コース）ごとに、より具体的な教育内容・特色、求める人材及び選抜の基本方針を設定している（資料1-2-1）。

### ○教育学部アドミッション・ポリシー

#### 教育内容・特色

岡山大学教育学部では、反省的・創造的な教員の育成を目的として、教育実習や体験的授業科目を軸（コア）にした独自の「教員養成コア・カリキュラム」を開発しています。このカリキュラムでは、学生が大学の授業で教育の理論を学び、それを教育現場で実践することで、学びを積み上げていきます。大学と教育現場でのこの循環的な学びを通して、教師に必要とされる4つの力（「学習指導力」、「生徒指導力」、「コーディネート力（地域や家庭と連携する力）」、および「マネジメント力（学校・学級経営力）」）で構成される教育実践力をバランス良く向上させていくことができます。

教育学部の教育内容の特色としては、学校教育の目的や教師の使命と教科の指導や教科内容構成等に関する知識を系統的に獲得するための大学での授業に加えて、それらを実践の場で応用する機会を豊富に設けていること、が挙げられます。具体的には、附属学校園での観察・参加実習、教育実習、公立学校園での「教職実践インターンシップ」など、教育現場での体験・実習活動を4年間、継続的・系統的に取り入れています。また、学校現場や社会教育施設等でボランティア活動を行う「フィールド・チャレンジ科目」を1年次から開講しています。

#### 求める人材

1. 基礎的な学力を持ち、学校教育への関心と理解そして熱意がある人
2. 子どもたちと一緒に活動することが好きな人
3. 学ぶことの楽しさを伝えることに意欲のある人
4. 子どもの発育発達と心身の健康について学び、豊かな感性を育みたい人
5. 多様な人々と連携・協働しながら地域社会に貢献していく意欲がある人

入学後の学修のため、高等学校段階までに習得してもらいたいこと。

高校では授業に意欲的に取り組み、その学習内容を習得してください。このようにして身に付けた基礎学力は、教員として子どもの学びと発育発達、心身の健康を支援するための知識を習得する上で必要不可欠なものです。また、様々な活動や社会の問題に興味をもって自分なりに考え、部活動やボランティアなどに積極的に参加することを通して、幅広い経験を積んでください。

このアドミッション・ポリシーと基準1-1で述べたディプロマ・ポリシーを踏まえ、教育学部では、次のような学部独自のカリキュラム・ポリシー（CP）が定められ、教育に関する理論と実践を教授・研究し、広く教育現場で活躍できる創造性豊かな人材を養成することを目指した「教員養成コア・カリキュラム」が編成されている（資料1-2-2）。

### ○教育学部カリキュラム・ポリシー

教育学部は、教育に関する理論と実践を教授・研究し、広く教育現場で活躍できる創造性豊かな人材を養成することを目的としてカリキュラムを構成しています。教養教育では、幅広い内容の科目を履修する一方で、専門教育においては、教員として求められる専門的知識や技能に加えて、豊かな人間性や職業観を身につけるために多様な科目を履修します。

教育学部では、教育実践力を身につけた教員を養成するために、教育実習や体験的授業科目を軸（コア）にした独自の「教員養成コア・カリキュラム」により、大学で学んだ教育の理論を教育現場で活かしたり、実践をふまえて理論を見直したりすることができるように学びを積み上げていきます。カリキュラムの中核に、教育現場での体験・実習活動を1年次から4年次にわたり継続的に取り入れることにより、大学の授業と教育現場での実践との効果的な往還が可能となり、教育現場の求める実践的指導力を備えた教員の養成を目指しています。例えば、教育現場や他の機関（博物館、福祉施設等）との連携による教育実践力の育成を意図した「フィールド・チャレンジ」を設定し、具体的な教育プログラムの企画・立案から実施、評価までを体験できるようにしています。また、学校で実践的経験を積む「教職実践インターンシップ」も導入しています。そして、身につけた教員としての資質や能力を「教職実践演習」で最終的に確認しています。

以上のように、教育実践力をバランスよく身につけた、反省的で創造的な教員を育成することを目指してカリキュラムを作っています。

### ② 専門性を深める専修制の工夫

教育学部では、入学時から教科等の専修に学生を分属して指導する専修制度を導入して、教科等の専門的力を高めることを目指している（資料1-2-3）。その上で、教員として求められる専門的知識や技能に加えて豊かな人間性や職業観を身につけるための多様な科目と履修基準を準備・設定している。教科の専門性は教員にとって重要なファクターではあるが、一方で、教科の枠にとらわれすぎ、教科教育の理念を理解しないまま卒業する学生も多くみられる。このような反省を踏まえ、現在、小学校教育コースにおけるクラス制の導入等について、その意義や問題点を検討しているところである。

### ③ 実習科目を中核にしたコア・カリキュラムの編成

教育学部では、2002（平成14）年9月に組織した「岡山大学教育学部 学部・大学院将来計画委員会」を中心として、カリキュラム等の検討を行い、教育実践力を身につけた教員を養成するために、教育実習や体験的授業科目をコアにした独自の「教員養成コア・カリキュラム」を編成し、それを実現するための教育組織の再構築を行った（資料1-2-4）。これは、カリキュラムの中核（コア）に、教育現場での体験的で実習的な科目や活動を1年次から4年次にわたり継続的に設定することにより、大学の授業と教育現場での実践との効果的な往還を可能とし、もって、

教育現場の諸課題に反省的に対応できる高度な実践的指導力を備えた教員の養成を目指すものである。

その後、コア・カリキュラムの実践結果の省察を繰り返し、2010（平成22）年度には、授業科目の追加や開講期の変更などを行った。なお、2014（平成26）年度末には、学部・大学院改組委員会を組織し、第3期中期目標期間中のコア・カリキュラムと教育組織の見直しに向けた問題把握と検討を継続的に行っている。

#### ④ 特色ある体験的な科目「フィールド・チャレンジ」の実施

具体的な体験的授業科目としては、「フィールド・チャレンジ」がある。これは、教育現場や他の機関（博物館や福祉施設等）との連携によって開講される授業科目で、具体的・实际的な教育プログラムの企画・立案から実施と評価に至るまで、学生が体験できるよう仕組みされており、教育実践力の育成を意図した学部独自の工夫である（資料1-2-5）。

#### ⑤ 教科内容構成学構築による独自の取り組み

「教科に関する科目」で特筆すべきは、「先進的教員養成プロジェクト」の一環としてなされてきた「教科内容構成学」構築の取り組みである（資料1-2-6）。この中では、専門教科の教員を中心に、教員養成コア・カリキュラムにおける各授業科目で、学生が教科内容構成指導を学ぶ視点やその必要性・内容についてまとめた「教科内容構成指導教科書」の作成が協働的に行われた。この取り組みに連動して教育学部独自の授業科目のナンバリングが実施されることとなった（資料1-2-7、資料1-2-8）。また、この取り組みの成果は2018（平成30）年の教育職員免許法改正を念頭に置いた検討に生かされ、たとえば「中等国語科内容構成Ⅰ・Ⅱ」のように、「内容構成」を名称に付した各教科に関する授業科目を開設するなど、2019（令和元）年のカリキュラム改編に反映されている。

#### ⑥ 中核としての実習科目：実践力育成をめざす重層的な編成

カリキュラムの中核（コア）でもある教育実習は、附属学校園並びに公立学校園との密接な連携のもとで行われている。これは、1年次に附属4校園（幼稚園・小学校・中学校・特別支援学校）、さらに2年次に公立の特別支援学校において実施される「観察・参加実習」としての「教育実習Ⅰ」（特別支援教育コースは除く）、教育実習の中核となる3年次において附属学校園で4週間にわたって行われる「教育実習Ⅲ」、その事前・事後指導となる「教育実習Ⅱ」によって構成されている。これら「教育実習Ⅰ」から「教育実習Ⅲ」のいずれにあっても、附属学校園の教員や優れた現職経験をもつ実務家教員によるきめ細かな指導体制が構築されている。

また、4年次には、公立学校園で実践的経験を積む「教職実践インターンシップ」を導入し、ここで体験した学びの成果を「教職実践演習」の場で省察・深化することができるようにしている。この「教職実践演習」は、通年にわたって開講され、これまでの学修を基盤に身につけた教員としての資質・能力を長期的かつ最終的に確認できるよう、専門委員会と各講座の教員とが連携して取り組むよう設定されている（資料1-2-9）。

【総評】教育学部のアドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーに則り、協働的に研究を行い、その成果を絶えずカリキュラム編成に反映させるよう自

覚的に取り組んでいることから、基準1-2を「十分に満たしている」と評価できる。

《根拠となる資料・データ等》

〔資料1-2-1〕岡山大学教育学部アドミッション・ポリシー

URL：<https://www.okayama-u.ac.jp/tp/admission/policy16.html>

〔資料1-2-2〕岡山大学教育学部カリキュラム・ポリシー

URL：<https://www.okayama-u.ac.jp/tp/profile/cp-edu.html>

〔資料1-2-3〕岡山大学教育学部 2020年度学部案内 3ページ

URL：<https://edu.okayama-u.ac.jp/faculty/?action>

〔資料1-2-4〕教員養成コア・カリキュラム

URL：<https://edu.okayama-u.ac.jp/faculty/curriculum/>

〔資料1-2-5〕2019年度岡山大学教育学部シラバス「フィールド・チャレンジA・B①~③」

URL：<https://gs.okayama-u.ac.jp/ex/index.html> (授業科目入力)

〔資料1-2-6〕平成26年度連携協力事業研究報告書 60-61ページ

〔資料1-2-7〕ナンバリング

URL：<https://www.okayama-u.ac.jp/tp/life/numbering.html>

〔資料1-2-8〕2019年度教育学部シラバス「地域学校協働アクティブスタディA」(一例)

URL：<https://gs.okayama-u.ac.jp/ex/index.html> (授業科目入力)

〔資料1-2-9〕2019年度岡山大学教育学部『学生の手引き』27ページ

基準1-3 [教職員の組織体制に関する工夫]

- 各教員養成機関は、教員養成教育を提供するにふさわしい教職員の組織体制を整え、学生の指導にあたること

[基準に係る状況]

① 教育現場及び実践経験豊かな実務家教員と密接に連携した体制の工夫

教育学部は、各コース・課程において教職教育、教科教育、教科専門を専門とする教員、および実務家教員が一体となって学習指導にあっている。特に、各教科の指導法開発、教職実践演習については、教科内容との強い関連付けを行いつつ、教員養成コア・カリキュラムで育成される「教育実践力」を構成する4つの力それぞれについて、学生の「教育実習」や「教職実践インターンシップ」における学校現場での実体験と関連させながら、ワークショップ、演習、発表などさまざまな形態で、一斉指導とクラス別指導を織り交ぜながら授業を行うことによって、より高い「教育実践力」の養成を実現している。教育実習およびインターンシップの指導体制については、基礎研究（事前・事後指導）を含めて、特に実務家教員が橋渡し役となり、教育学部と附属学校園・公立学校の密接な連携に基づいた指導体制を確立している（資料1-1-3、資料1-2-9）。また、教育実習等を含め、附属学校園に関わる重要事項を協議するため、2018（平成30年度）に「岡山大学教育学部附属学校園運営会議」を設置するなど、運営体制の一層の強化を図っている。

## ② 教職への導入を図る指導体制

教育実習改革WGを組織し、教育実習における様々な課題についての改善策の検討を行った。学部全体の取り組みとして、入学1年次から始まる教育実習（観察・参加実習）を見据えて、事前・事後の指導に加えて、ガイダンス科目「学問の方法」の学部共通テーマの中に「教育実習に向けた心構え」についての内容を追加した。講座によっては、高校と大学の接続を容易にするためのリメディアル教育の導入、グループワークによる所属意識の涵養、専門基礎科目履修年次の1年次への移行等により、早期から教職への意欲を高めるための取り組みを進めている（資料1-3-1）。また、令和元年度より、入学直後の教職必修科目である「教職入門」において、現職教員とグループワークを行うなど、教職の理解とその意識付けをするような取り組みを開始している。

## ③ 教職に向けての組織的な支援体制の工夫

学生の教職に関するあらゆる相談に対応するために、校長経験を有する特任教授が指導にあたる教職相談室を開設している。教員採用試験情報の提供、教員採用試験に向けた論作文の添削、個人面接・模擬授業・ロールプレイングや場面指導に加えて、教職や現場に対する興味関心、悩みや意欲低下などの様々な相談についても対応しており、コア・カリキュラムによる研究教員の指導に加え、こうした特任教授の指導を受ける中で、学生個々人が目指すべき教員像を確立することが可能となっている（資料1-3-2）。また、就職・学生委員会が中心となり、学部学生の進路状況の把握、教職ガイダンス、ガイドブックの作成、および教採集中セミナー（年12回開催）の企画運営等を行い、一人でも多くの学生が教職に対する強いモチベーションをもつように喚起している（資料1-3-3）。このうち、教職ガイダンスには同窓会からの支援も得ている。

## ④ 就職後の支援体制確立を目指す取り組み

学部教育と卒業後（採用後）の研修を一体として意識させるため、教師教育開発センターにおいて教師力養成講座を開講している。本講座は、平成30年4月より「教師力養成演習」として授業化もされ、履修生以外の学生も参加可能とし、広く門戸を開いている。学校現場が直面している今日的な課題について、最前線で活躍されている現職教員による講演、参加学生による協議を通して、教師力の本質について理解を深め、教職に向けての意欲や自信を高めることを目的としている（資料1-3-4）。

近年、教職に就いた後、数年で離職する卒業生の存在が指摘されており、新規採用後のアフターケアについてもFD研修会を開催し検討をした。平成27年度には、岡山県・岡山市教育委員会の合同連携協力会議において「初任者等メンタルケア事業に関する申合せ」が承認され、初任者等メンタルケア・ケーススタディ会議を開催し、ケーススタディを通して、初任者等が意欲的に職務に取り組み、やりがいを持って教育活動を行うことができるよう、具体的なメンタルヘルス対策を検討し、一般化できる知見を導き出している（会議等は非公開であり資料は提示不可）。現場で様々な課題と向き合う若い教員たちが卒業後も大学に気軽に尋ねて相談できる体制作りに向けた工夫も模索されている。

【総評】学部全体で学生指導に取り組み、学部教育と就職後の研修を一体的に捉えた指導体制づくりにも配慮していることから、基準1-3を「十分に満たしている」と評価できる。

《根拠となる資料・データ等》

〔資料1-1-3〕教職実践ポートフォリオ（第2版）

〔資料1-2-9〕2019年度岡山大学教育学部『学生の手引』26-30ページ

〔資料1-3-1〕1年生に対する教職や専修（専門）への導入・補完などに関する講座の取り組み

〔資料1-3-2〕平成30年度教職相談室利用者数調・利用内訳

〔資料1-3-3〕岡山大学教育学部『教職ガイドブック2020』147-154ページ

〔資料1-3-4〕平成30年度連携協力事業研究報告書 57-58ページ

URL：<https://www.okayama-u.ac.jp/user/cted/outline/3.html>

#### 基準1-4〔教職課程に対する自律的・恒常的な改善システムの構築と運用〕

- 各教員養成機関は、教員養成教育のあり方を恒常的に見直し、改善につなげるシステムを自律的に構築し、運用していること

[基準に係る状況]

##### ① 自律的な改善システムの要としての委員会の組織

教育学部では、教員養成教育における課題把握とその解決に向けての体制の要として、ファカルティー・コーディネーター（FC）委員会を組織して、アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー及びディプロマ・ポリシーを作成するとともに、これらの3つのポリシーに基づいて教育内容の見直しを行った（資料1-1-1、資料1-2-1、資料1-2-2）。また、現在、教務委員長を中心とした検討委員会を立ち上げ、自律的な見直しと改善の作業を進めている。

##### ② 改善に向けた組織的な取り組み

恒常的な取り組みとしては、各基本委員会（総務、入試、教務、教育実地、学術、就職・学生、企画広報）を中心として、教職相談室、ならびに教職支援グループ（教育学部独自の事務体制）が一体となって、学生の学習状況の把握、教職支援に関わるサポート体制を整えて、最新の知見に基づく学生指導を行っている。教務委員会主導のもと、各教員にあつては、Q-cum systemにより指導学生の学習成果の獲得状況を随時把握することが可能となっている（資料1-4-1）。

教科構成学開発事業部会を発足させ、全学部教員による共同研究として学生対象の「教科内容構成指導教科書」の作成に取り組んだ。本取り組みは、各教科において、子どもの発達過程や学習状況、教科内容の系統性・原理を考慮し、どのような段階でどのような内容、教材、指導法で指導するのが相応しいのかを検討し、全体の指導計画のもと素材から教材を開発し、学習指導案を作成し、授業を実践して省察する、という一貫したプロセスを学ぶための新しい授業科目の開発を目的とした。以上のような取り組みは、令和元年度入学生からの新カリキュラムにおける授業科目名などに反映されている（資料1-4-2）。

##### ③ 恒常的な検討を可能にするカリキュラムマップの作成と公表

カリキュラム改善のための基礎資料として、教育学部の開講科目を網羅したカリキュラムマッ



プ、および各コース・課程別の履修モデルを作成・公表している（資料1-4-2）。これによりカリキュラム編成の現状を把握し、3つのポリシーに対応したカリキュラム編成となっているか、また各ポリシーに即した授業科目が開講されているかについて検討することが可能となり、同時に共同研究の成果に基づき、授業科目のナンバリング導入を行った。現在、教務委員長を中心とした検討委員会において、各授業がDPおよびDPを元にしたコンピテンシーにおいて育成する資質能力を明確化するためのカリキュラムマップ作成の作業を行なっている。

#### ④ 教育（学習）成果の評価システムと60分・クォーター制の導入

2013（平成25）年度より岡山大学学士課程教育構築システム（Q-cum system）の試験運用を開始した。このQ-cum systemは、カリキュラム改善のための基礎資料となる「科目分布表」及び「科目分布チャート」を作成する科目分布システム、並びに学習成果を把握するための「学士力評価チャート」を作成する学士力チャートシステムで構成されている。Q-cum systemの導入により、教育内容と学習成果を客観的な指標として抽出することが可能となった。学部全体の把握はもとより、教員一人一人が持続的なカリキュラムマネジメントを遂行できる体制の構築を目指している。

60分・クォーター制の導入に伴い、Q-cum system等を利用した授業改善に向けた取り組みを開始している。「学びの強化」を目標として、課題解決型学習・アクティブラーニング・クリティカルシンキングを連動させた新しい授業方法の開発の試みに着手した（資料1-4-3）。加えて、教育の現代的課題、地域特有の課題に 대응していくための共同研究を行っている。具体的には、学校現場における諸問題と関連させながら、地域社会と連携した実践・社会連携授業を模索し、ESD協働推進室を中心として岡山市内小・中学校でのESD実践支援、及びユネスコスクール申請に係る支援を継続して実施している（資料1-3-4、資料1-4-4）。

【総評】 諸委員会を中心に客観的なデータに基づく恒常的な改善検討を進めていることから、基準1-4を「十分に満たしている」と評価できる。

《根拠となる資料・データ等》

〔資料1-1-1〕 岡山大学教育学部ディプロマ・ポリシー

URL : <http://www.okayama-u.ac.jp/tp/profile/dp-edu.html>

〔資料1-2-1〕 岡山大学教育学部アドミッション・ポリシー

URL : <http://www.okayama-u.ac.jp/tp/admission/policy16.html>

〔資料1-2-2〕 岡山大学教育学部カリキュラム・ポリシー

URL : <http://www.okayama-u.ac.jp/tp/profile/cp-edu.html>

〔資料1-2-9〕 2019年度岡山大学教育学部『学生の手引』

〔資料1-3-4〕 平成30年度連携協力事業研究報告書 37ページ

〔資料1-4-1〕 Q-cum System【学士課程教育構築システム】

URL : <https://www.iess.ccsv.okayama-u.ac.jp/hedi/q-cum/>

〔資料1-4-2〕 教育学部カリキュラムマップ

URL : [http://www.okayama-u.ac.jp/up\\_load\\_files/freetext/gakumu-gakushil/file/cp-edu.pdf](http://www.okayama-u.ac.jp/up_load_files/freetext/gakumu-gakushil/file/cp-edu.pdf)



短縮 URL: <https://bit.ly/37fL1sH>

例えば, 小学校教員養成コース

URL: [https://edu.okayama-u.ac.jp/faculty/curriculum/?action=common\\_download\\_main&upload\\_id=285](https://edu.okayama-u.ac.jp/faculty/curriculum/?action=common_download_main&upload_id=285)

短縮 URL: <https://bit.ly/2u0LUqV>

[資料 1-4-3] 岡山大学の教育改革「学びの強化」～60分授業・クォーター制導入～

URL: [https://www.okayama-u.ac.jp/upload\\_files/gakumu-pdf/ou/ou\\_voice17.pdf](https://www.okayama-u.ac.jp/upload_files/gakumu-pdf/ou/ou_voice17.pdf) 8-12 ページ

短縮 URL: <https://bit.ly/354UwJN>

[資料 1-4-4] ESD 協働推進室の業務内容・活動内容

URL: [https://edu.okayama-u.ac.jp/promotion\\_center/activities/](https://edu.okayama-u.ac.jp/promotion_center/activities/)

## 基準領域2 教職を担うべき適切な人材の確保

### 1 基準ごとの分析

#### 基準2-1 [教職課程への学生の導入に関する工夫]

- 各教員養成機関は、教職課程（教員養成系大学・学部にあつては教員養成課程）において教員養成教育を提供するに際して、将来的に教職を担うにふさわしい人材を対象とするべく必要な手立てを講じること

#### [基準に係る状況]

##### ① アドミッション・ポリシーの公表による入学生の受入方針の明確化

岡山大学教育学部では、教育理念・目的に基づいたアドミッション・ポリシーを学部・課程・コースそれぞれに設定し、学生募集要項やホームページ等に掲載・公表し、周知を図っている（資料1-2-1）。このアドミッション・ポリシーは、今日の教育課題や今求められる教員の資質・能力との関連で検討・改善してきた。また、2014（平成26）年12月の中央教育審議会答申「新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体的改革について」に示されたように、求める学生像に加え、高等学校段階で習得しておくべき内容や水準を明確にした。さらに、現在、大学機関別認証評価に向け、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーとの一貫性や整合性の再確認等の作業を進めるなど、恒常的な検証にも努めている。

##### ② 入学者選抜の多様化

教育学部入学者選抜試験は、教育目的、養成する人材像に応じた学生を受け入れるため、AO入試と一般入試（前期日程）を実施している（資料1-2-3）。一般入試では、センター試験に加え、学力検査、小論文、実技試験等、それぞれの募集単位において求められる学力や技能、適性などに応じた選抜を行っている。AO入試においては、アドミッション・ポリシーに基づき、教育への関心、教職への意欲を始めとした、教員として求められる幅広い資質を評価するため、志望理由や活動体験などの自己推薦書、それぞれの課程・コース（専修）ごとに設定した課題を含む面接により、一般入試とは異なる観点から、多面的な選抜を行っている。面接においては、それぞれの募集単位で、アドミッション・ポリシーと照らし合わせた詳細な評価基準を決め、それに基づき、公正な選抜を行っている。教育学部では、幅広い知識や基礎的な学力も教師の資質と考え、すべての受験生に大学入試センター試験を課しており、これらを合わせた総合的な評価を行っている（資料2-1-1）。しかしながら、現行のAO入試においては、募集単位間でその選抜方法に対する評価が分かれており、選抜が有効に機能しているかどうかを改めて検討し、選抜方法等の改善を図っていく必要があると考えている。

また、これからのグローバル化社会に対応するため、2015（平成27）年度入試より、これらの入試方法に加えて、国際バカロレア入試を開始し、AO入試や一般入試とは異なる観点から、国際社会で活躍できる資質を備えた学生の選抜を行っている。さらには、ミッションの再定義による地域密接型の大学としての機能を強化するため、また、教職への意欲や適性の高い高校生をよりスムーズに大学での教員養成につなげるため、2018（平成30）年度入試より、岡山県北地域教育プログラム入試を導入し、岡山県北地域の教員として、学校のみならず地域社会に貢献できる

資質を備えた学生の選抜を行っている。

これら多様な入試選抜方法に加えて、高大連携事業を通じた高等学校における模擬授業、高校生への大学の授業の一部公開など（資料2-1-2）、教員への意欲・関心を高めるための取組を行っている。さらに、高校生を対象としたワークショップや研究発表会の開催など、教育・研究の魅力を伝えるとともに、教職への意欲と岡山大学教育学部入学への意欲を高める取り組みも行っている（資料2-1-3）。今後も引き続き、高校生に、より一層岡山大学教育学部の魅力・独自性を伝えるとともに、教職への意欲を高められるような取組の検討を進めていく。

### ③ 選抜方法の適切性・妥当性の担保

選抜方法の適切性・妥当性については、入試選抜方法の違いによる教員就職率などの分析や、各講座に対して修学上の課題についての調査などを行い、その情報をFD研修などにより全教員が共有することで、入試の改善に取り組んでいる。AO入試において、課程・コース（専修）ごとに設定している課題については、年度ごとに変更や見直しを行い、また、自己推薦書においては、その位置付けや評価点の分析をもとに一部改訂を行うなど、継続的に評価を行うことで改善に取り組んでいる（秘密資料のため添付不可）。新設した推薦入試「岡山県北地域教育プログラム入試」では小論文、個人面接（口述試験を含む）、集団面接（グループワーク形式）などを入学者選抜方法としている（資料2-1-4）。岡山県北地域における地域固有の教育課題を中心としつつも、広く教育の現代的な課題に実践的かつ主体的に取り組むことができる学生、他者と共同しながら新しい社会に求められる教育のあり方を創造し、構築することに積極的な姿勢を持つ学生の入学を目指した選抜方法として展開していると言えよう。さらに、岡山大学教育学部のミッションや独自性をふまえて、今後社会に求められる教員としての資質を備えた学生の確保を図るための選抜方法について引き続き検討していく。

【総評】教育学部・課程・コースごとにアドミッション・ポリシーを設定し、教育の理念・目的、それに応じた求める人材像を踏まえた多様な入試を行っている。さらに、入試に関する内部評価・改善を行っていることから、基準2-1は「十分に満たしている」と評価できる。

《根拠となる資料・データ等》

〔資料1-2-1〕岡山大学教育学部アドミッション・ポリシー

URL：<http://www.okayama-u.ac.jp/tp/admission/policy16.html>

〔資料1-2-3〕岡山大学教育学部 2020年度学部案内 1ページ

URL：<https://edu.okayama-u.ac.jp/faculty/?action>

〔資料2-1-1〕2020年度アドミッション・オフィス入試（AO入試）学生募集要項

URL：<https://www.okayama-u.ac.jp/tp/admission/aobosyuyoko.html>

〔資料2-1-2〕高校生が岡大キャンパスで大学生と共に受ける授業

URL：<https://www.okayama-u.ac.jp/tp/society/koudai06.html>

〔資料2-1-3〕教育学部における高校生を対象とした教育・研究活動支援

〔資料2-1-4〕2020年度推薦入試・社会人入試学生募集要項（閲覧用）

URL：<https://www.okayama-u.ac.jp/tp/admission/suisenshakaibosyuyoko.html>

短縮 URL: <https://bit.ly/36cBKlm>

## 基準 2-2 [教職課程履修生／教職志望学生への適切な支援と指導]

- 各教員養成機関は、教員養成教育を受けている学生に対して、その折々で適切な支援と指導を行うこと

[基準に係る状況]

### ① オリエンテーションの充実

1年次生に対して、入学時のオリエンテーションや「学問の方法」（教育学部開講の教養教育科目）において、カリキュラムや履修についての全般的な指導を行っており、「学生の手引」や「教員免許取得ガイド」などを作成・配布している（資料1-2-9，資料2-2-1）。岡山大学教育学部は2006（平成18）年より実習を中心とした教員養成コア・カリキュラムを導入しており、それに基づき、2007（平成19）年度から「教職実践ポートフォリオ」を導入している（資料1-1-3）。実習は「積み上げ方式」であり、1年次5月上旬より開始となるため、それに先立ち、入学早期から実習を中心としたカリキュラムの構造、履修モデルを示すなどの指導を行っている。2年次以降においても、新学期に学部全体、コース、専修ごとのオリエンテーションを開催し、履修についての指導を適宜行っている。また、各講座独自の取り組みとして、1，2年次の担任制の導入や個別面談の実施などにより、全体的なオリエンテーションとともに学生個人に対しても教職課程や大学教育全般に関わる支援や指導に繋がる工夫をしている。

### ② 学生の協同的な学びの組織による支援の充実

教員による支援・指導は、課程・コース・専修など様々な単位できめ細かく行っているが、限界があるのも事実である。そこで、学生による主体的集団作りを意図し、学生同士の協同的な学びを促進している。4年間の養成教育を通じて同学年はもとより、異学年を含めた協同的に学び合ういくつかの組織が形成され、学生同士の学びの進化に寄与するとともに、支え合いを構築している。この学生同士の学び合いは、学習や教職への意欲が高い学生が中心となることで、集団としての資質を高めることに貢献している。また、この集団性を高めることは、同僚性や協同性の育成にも寄与しており、将来、教職に就く上で求められるマネジメント力やコーディネート力の育成の基礎にもなる。マネジメント力・コーディネート力の育成は、学部の4年間では充分ではないが、学生同士で学び合う中で、その基礎を身につけることに繋つながっている。

最近の学生は自発的に他者と関わったり、グループを形成したりする意識が必ずしも高いとは言えない。他方、平成30年7月豪雨による災害では、本学部からも自発的なボランティア参加があり、避難所での学習支援、見守り、読み聞かせなど主に教育的な支援に学生らは取り組んだ（資料2-2-2）。地域での協同的な学びを実践する一つの契機ともなった。

### ③ 教職実践ポートフォリオの活用による指導の充実

教育学部では、「学習指導力」「生徒指導力」「コーディネート力」「マネジメント力」の4つの力で構成される教育実践力をバランスよく身につけた教員養成を目指している。この4つの力については、「教職実践ポートフォリオ」において、4年間の各時期に身につけるべき内容と水準

が「評価の視点と指標」として具体的に示されている。この「教職実践ポートフォリオ」は、個々の学生が4年間を通した教員養成コア・カリキュラムにおける履修計画を考える際に活用されるだけでなく、4年生の「教職実践演習」までの教育実習に関する履修履歴を記載・録し振り返ることで、自己評価のツールとしても機能している。

また、「教職実践ポートフォリオ」は、指導教員が学生の教職に対する意欲や適性、課題を把握することにも役立っている。教育実習の事前・事後には、指導教員が「教職実践ポートフォリオ」にコメントを記入し、さらに個別の面談などを行い、個々の学生に応じた適切な指導へと繋げることができている。

#### ④ 教職志望者への支援・指導の取り組み

教職を志望する学生に対して、教育学部では1年次生から4年次生までの各時期に応じたガイダンスなどの様々な支援・指導を行っている。3年次末から教員採用試験が行われる直前までの時期には、就職・学生委員会が中心となって教員採用試験の試験対策を目的とした「教採突破集中セミナー」を開催している。また、豊かな教職経験を有する2名の専任教員を中心に運営される「教職相談室」が常設されており、教員採用試験対策だけでなく、教職に関する様々な情報提供や教職についての相談に応じるなど、3,4年次生を中心に教職を志望する学生に対し多方面から支援を行っている。このような支援・指導の日程や内容に関する情報や、教員採用試験合格者による試験内容・方法・アドバイスなどの内容をまとめた「教職ガイドブック」を2年次後半に全学生に配付している（資料1-3-3）。

教職への意欲を維持させるために、1年次から2年次にかけては、教職の魅力や学校現場の実際を正確に知ることを目的として、岡山県内の各種学校の現場で働く卒業生と交流する機会を設けている。3年次の教育実習前後にかけて教職への意欲が低下する傾向があることが確認されており、この時期の学生に対しても教職への意欲が維持、さらには上昇するような取り組みを開始している。例えば、教員採用試験合格の4年生を囲んで語り合う、主に3年生を対象とした教職ガイダンス取り組みもその1つである。

#### ⑤ 成績不振者および教職以外への就職希望者への指導

教育実習はⅠからⅢまで「積み上げ方式」であるが、教育実習Ⅲには履修要件を設けており、学校教育教員養成課程では教職に関する科目 11～15 単位（コースによって異なる）を含む総単位数 72 単位以上を修得しておくことが必要である。同様に養護教諭養成課程では、養護実習Ⅲの履修のためには、教職に関する科目 11 単位を含む総単位数 60 単位以上が履修要件となる。

「教職実践ポートフォリオ」や個別の面談により、学生の教職に対する意欲や適性を把握しているところではあるが、学部全体としても1年間の履修単位数が基準に満たない学生や休学の学生について、指導教員から指導の状況や課題について聞き取りを行っており、指導教員個人のみならず、適切な指導ができるように全学組織を利用すること等も含めて、対応について検討しているところである。また、学生の単位取得状況を定期的に保護者に通知することにより、保護者と連携して学生の適切な修学指導を行うための情報共有の体制も備えている。

入学者選抜の工夫や入学後の様々な指導を行っても、教職につかない学生は一定数存在する。就職・学生委員会では、毎年、進路希望調査を行っており、教職希望の学生の状況を把握している。また、全学で数年に1回（不定期）行われる「学生生活実態調査」において、教育学部学生

の修学に関すること（教育・研究への満足度、授業内容の理解、転学部の希望など）や大学への要望についてのニーズなどを把握している（資料2-2-3）。それらの学生に対しては、教職以外の進路などを含めて、全学のキャリア・学生支援室からの情報を提供するなどの支援を行っている。これらの学生が教職につかない理由について、実習において不適性であることを自覚、経済的な理由など、個々の学生ごとに把握するとともに、対策を考える上で、全体としての傾向を把握するための調査を毎年行っている。

#### ⑥ 2年次以降の学生への支援・指導体制の課題

①で述べたように1年次生に対する支援・指導は、オリエンテーション等を通して、学部全体で組織的になされており、④で述べたように2年次以降でも各学年においてオリエンテーション・ガイダンスが計画的・体系的に実施されている。しかし、2年次以降での教職への意欲が低下傾向にある現状を踏まえると、支援・指導体制には改善の余地があると考えられる。今後は、各学年で養うべき資質・能力を学部全体で組織的に問い直していくとともに、実習を含めたカリキュラムの全体的な見直しが予定されているので、それに対応する形でのより良い支援・指導のあり方を検討していく予定である。

【総評】学部全体、コース、専修などの規模に応じた履修支援と同時に、クラス担任、指導教員による個別の履修指導を行っている。また、教員養成コア・カリキュラムを基礎とした「教職実践ポートフォリオ」の活用を通して、個々の学生の適性や課題などに基づいた、きめ細やかな学生指導を行っており、基準2-2を「十分に満たしている」と評価できる。

#### 《根拠となる資料・データ等》

〔資料1-1-3〕教職実践ポートフォリオ（第2版）

〔資料1-2-9〕2019年度岡山大学教育学部『学生の手引』

〔資料1-3-3〕岡山大学教育学部『教職ガイドブック2020』

〔資料2-2-1〕教員免許取得ガイド（2019年度入学者用）

〔資料2-2-2〕平成30年7月豪雨による災害について

URL: <https://www.okayama-u.ac.jp/tp/profile/heavyrain.html#more>

〔資料2-2-3〕『2015年度岡山大学第6回学生生活実態調査報告書』39-56ページ

## 基準領域3 教職へのキャリア・サポート

### 1 基準ごとの分析

#### 基準3-1 [教職への意欲や適性の把握]

- 各教員養成機関は、教員養成教育を受けている学生の意欲や適性の把握に努めるとともに、教職に向けての適切なキャリア支援を行うこと

#### [基準に係る状況]

最近の教員就職率の低下傾向を踏まえ（資料3-1-1）、教職に向けたキャリア支援については、これまで成果を確認しつつ、新たな取り組みを開始している。

#### ① 学生の意欲・適性調査と適切な履修支援

全学組織の教師教育開発センターは、教育学部が獲得したGPを契機として設置され、教育学部と協働して学生の教職への意欲と適性の向上を支援している（資料3-1-2）。同センターの教職支援室では、教育学部と協働して年間6～7回の「教師力養成講座」を開講してきた。平成30年度からは「教師力養成演習」として授業化されたが、履修生以外も参加可能となっており、広く学びの機会を提供している。各回では、現職教員を講師として招聘し、学校現場の諸課題をテーマにした講演と、その課題解決のためのグループ・ディスカッションを主体とする学生参加型のセミナーが実施されている。3～4年次生を中心として多数の履修者・参加者（2018（平成30）年度履修者103名、参加者65名：参加者は延べ数：大学院生と他学部等からの参加者を含む）があり、教職への意欲向上と今日の学校現場で必要とされる「教師力」の育成に努めている（資料3-1-3）。また、同センターと就職・学生委員会及び教育学部同窓会の共催による「教職ガイダンス」は、学校管理職経験者による講演や採用試験合格者からのアドバイスにより、採用試験に向けた意欲を高めることを目的とし、2年次生以降について全学生の参加を基本として実施している（資料3-1-4）。

学生の教職への意欲や適性等を把握・診断・評価するために、就職・学生委員会を中心として、全学年を対象とした「進路等希望調査」、4年次生を対象とした「教員採用試験受験状況・合格状況調査」及び「進路等状況調査」を行っている。これらの情報は、教職支援担当事務より学部の全教員にメール添付などで配信され、情報共有が図られている。また、全学のキャリア開発センターでは、卒業時進路等状況調査を実施している。

これらの調査は継続的に実施しており、長期的な変化や同一学年の経年変化を把握することに努めている。特に、全学年を対象とした進路等希望調査は毎年4月に実施し、卒業後の進路として、教員・進学・保育士・公務員・企業等のどの職種を希望しているのかを問うている。学年進行・カリキュラム進行に伴い教職への意欲が変化する時期を把握できる資料であり、これらの調査結果を課程・コース・講座等別に整理した上で、教授会において報告される。また、その一部は『教職ガイドブック』などに掲載されている（資料1-3-3）。講座等での個々の学生指導では、教育実習記録とともにこの資料が活用され、教職へのモチベーション低下や卒業後の進路に迷いが生じた学生への早期対応に役立てられている。

また、例年10月～1月に実施される「教職ガイダンス」においても、その内容や開催時期・対象学年の変更、講座等でのキャリア支援の方針を決定するために、この資料を活用している。

なお、この「教職ガイダンス」及び4月の学部オリエンテーションは、半年ごとに学生の教職への意欲や心構えを喚起するための機会として設けられている（資料3-1-5）。

教職に向けてのキャリア支援のうち、履修に関するサポートは教務委員会が担っている。教務委員会は、教員養成コア・カリキュラムの不断の改善と運営、履修状況等を学生自身や指導教員に提供することによって、個々の学生のニーズに応じた履修指導を支援している。同委員会は、学生の履修状況を常に把握しており、問題がある場合には指導教員に履修に関するデータを提供して面談指導を依頼し、指導教員はその結果を委員会に報告することで、委員会と教員とが学生の状況を共有し、継続的な履修指導を可能としている（資料3-1-6）。

## ② 各講座等の取り組み

学生が大学生活で最も長い時間を過ごす所属講座等では、学生の教職への意欲や適性を把握することにとどまらず、教職への情熱と教育実践力を有する反省的で創造的な教員を養成するために独自の取り組みを実施している。多くの講座では、ガイダンス科目における合宿研修や講座独自の学生研修会、卒業生との交流会等を実施しており、卒業生である若手教員等から学生に向けて、教職への意欲を高める講話を行う機会を早期から段階的につくっている。また、日常の授業においても学生の資質・能力を高める課題を与えることで、自学自習を促している。これは、教職入職後に課題の意義を理解でき、非常に役立っているとする意見が多い（資料3-1-7～11）。

## ③ 各教員の取り組み

各教員は、教員養成コア・カリキュラムを構成する授業科目の受講前後で、「教職実践ポートフォリオ」を用いて個々の学生が教職に対する自らの力量を自己評価するとともに教職課程履修に係る自己課題の発見を促している。指導教員は自己評価を確認して、各学生の自己課題への対応について必要な場合は面談を実施し、コメントを記載する。指導教員は、このような指導体制を通して、定期的に担当学生の教職に対する適性を把握し、教職に対する学生の意欲向上や適正をめぐって必要な指導を行っている。

教員養成コア・カリキュラムにおける大きな特徴として、4年次前期から「教職実践演習」と「教職実践インターンシップ（長期学校インターンシップ）」を必修としていることが挙げられる（資料1-4-2）。こうした「教職実践演習」でも「教職実践ポートフォリオ」を活用し、それまでの学びの省察を実施している。教職実践インターンシップは、そこで明らかとなった自己課題の探求と解決の場として位置づけられており、教職への適性の確認はもとより、学生の意欲向上と自信の獲得を促している。

なお、学生に適切な助言や示唆を与えることのできる教育体制を確立するためのFD研修のあり方を模索し、指導教員の教育力向上を目指している。

【総評】学生の教職への意欲や履修状況に係る定期的・経年的なデータ収集に取り組むとともに、委員会・講座・教員が協力し、意欲のさらなる向上を喚起する不断の指導を実施している。また、指導教員は、「教職実践ポートフォリオ」への記載や柔軟な面談の機会を通して教職への適性を把握し、教員としての資質向上に必要な相談・指導を実施している。さらに、問題がある場合にも委員会・講座・教員が協力して丁寧なキャリア支援を行っていることから、基準3-1を「十分に満たしている」と評価できる。



## 《根拠となる資料・データ等》

〔資料1-3-3〕岡山大学教育学部『教職ガイドブック2020』147-150ページ

〔資料1-4-2〕教育学部カリキュラムマップ

URL: [http://www.okayama-u.ac.jp/upload\\_files/freetext/gakumu-gakushi1/file/cp-edu.pdf](http://www.okayama-u.ac.jp/upload_files/freetext/gakumu-gakushi1/file/cp-edu.pdf)

短縮URL: <https://bit.ly/37fLlsh>

〔資料3-1-1〕平成25年度及び平成30年度学部卒業者の教員採用試験受験率・教員就職率・教員志望率

〔資料3-1-2〕教師教育開発センター概要図

〔資料3-1-3〕教師力養成演習受講者数

〔資料3-1-4〕令和元年度教職ガイダンス（掲示）

〔資料3-1-5〕平成31年度オリエンテーションスケジュール

〔資料3-1-6〕留年学生及び修得単位数の少ない学生への履修指導及び修学状況等の調査について

〔資料3-1-7〕講座等における各種オリエンテーションや合宿研修等を活用した取り組み

〔資料3-1-8〕ガイダンス科目「学問の方法（各講座担当コマ）」における学生の教職への意欲向上や適性を把握する講座の取り組み

〔資料3-1-9〕講座における学生の教職への志望状況の把握と指導上の活用

〔資料3-1-10〕講座における卒業生の就職状況の把握

〔資料3-1-11〕講座における教員等採用候補者選考試験対策の取り組み

## 基準3-2 〔履修指導を支える組織体制やシステムの充実〕

- 各教員養成機関は、教員養成教育を受ける学生が主体的にキャリア形成を行うべく、必要な組織体制やシステムを整えること

## 〔基準に係る状況〕

## ① 委員会組織によるキャリア形成への対応

学生のキャリア形成についての組織としては、就職・学生委員会を中心として、総務委員会、教務委員会、教育実地委員会、学術研究委員会がその役割を果たしている（資料3-2-1）。

就職・学生委員会は、すでに述べた通り、履修指導を中心として学生生活全般を支援し、1～3年次の学年別に「教職ガイダンス」を開催するとともに「教職ガイドブック」を作成・配付するなど教員就職への直接的なサポートを実施している。就職・学生委員会が中心となって集積・分析したアンケート結果や教職に関するデータは、教授会等で報告され、主体的なキャリア形成のために各講座や指導教員が学生指導に活用している（資料1-3-3）。

総務委員会は主にハード面を担当し、講座ごとに学生控室・演習室・資料室を整備し、共有スペースとして建物の各階に数カ所のリフレッシュスペースを設けて、これらのネットワークやICT機器を整備して利便性の高い学生の学習環境を実現している。また、総務委員は教育学部安

全衛生管理室・安全衛生委員会との連携協力体制により、学生や学習環境の安全管理を実施していることも組織的対応として挙げられる（資料3-2-2）。

教務委員会は、すでに述べた通り、教員養成コア・カリキュラムの絶え間ない改善や円滑な運営を担い、学習面で適切なキャリア形成を支援している。入学時における「教員免許取得ガイド」の配布によって新入学生の履修計画を支援する他（資料2-2-1）、授業ごとに「授業評価アンケート」を実施して、各期の全体平均とともにその結果を教員にフィードバックし、学生の適切なキャリア形成に向けた授業改善に役立っている（資料3-2-3）。

教育実地委員会は、カリキュラムの中軸（コア）を担う学校教育現場での学びを支える組織であり、1～4年次までの実践的授業科目、教育実習、インターンシップの運営と、その前後の指導を通して学生の教員養成教育を担っている（資料3-2-4）。

学術研究委員会は、主に教員の研究活動を支える組織であるが、学生用図書を選定や学術成果の公開を通じて学生の学習をサポートしている。

## ② 全学センターとの協働による主体的キャリア形成を支援する取り組み

教師教育開発センターの教職相談を担当している教職支援室では、校長経験等を有する特任教授2名を中心に、個々の学生のニーズに応じた丁寧な教職相談及び教員採用試験対策指導を行い、年間の相談件数は5,157件（2018（平成30）年度実績：延べ数：教育学部生4,464件、他は大学院生と他学部生等）に達している（資料1-3-2）。

学生のヘルスケアやメンタルケアについては、全学の保健管理センターと学生支援センターが中心となって対応している（資料3-2-6、資料3-2-7）。保健管理センターでは、内科医と精神科医が常勤しており「こころ」と「からだ」の健康について支援している。全学生には、4月の定期健康診断と保健師による健康相談が義務付けられており、教育学部に所属する学生については、定期健康診断以外にも教育実習前の健康診断を実施している。学生支援センターの学生相談室では、専門のカウンセラーや常勤教員により主にメンタル面の支援を行っている。また、学校教育現場での実習や介護等体験による各種施設の実習で求められる感染症に関する対応として、教育実地委員会では、保健管理センターが実施している入学時の予防接種状況に関する調査結果によって接種や罹患の状況を把握している。さらに、未罹患・未接種者には、予防接種の推奨や、必要に応じて医療機関の紹介など対応を行っている。学生のヘルスケアやメンタルケアに関する情報は、毎年4月のオリエンテーションで全学年に周知されるとともに、常に掲示版やWebにより周知の徹底を図っている。さらに、ヘルスケアやメンタルケアに関する取り組みや学生の状況については、例年のFD研修を通じて教職員に周知されている

## ③ 教員採用試験への支援

教員採用試験に向けた取り組みは、教職における職能を省察する機会ととらえ、多くの組織的対応がなされている。本学部就職・学生委員会と同窓会の共催による「教採自主講座」は、主に4年次生を対象として開催されてきた。教員採用試験に関する情報を提供するとともに、教職教養、小論文、面接、模擬授業などの試験科目が教員として備えるべき資質の何を測ろうとしているのかを考えることによって、生涯に渡って学び続ける教員としての資質を向上させることの大切さを指導してきた。現在、これを引き継ぐ形で強化し、「教採集中セミナー」を開催している（2018（平成30）年度開催実績12回）。学生が比較的参加しやすい時間帯に設定し、無料で開催

している。同セミナーの受講者数は、2017（平成29）年度が863名、2018（平成30）年度が948名（いずれも延べ数）であった（資料3-2-8）。

また、岡山県・岡山市教育委員会をはじめ、県内外の自治体等教育委員会からの教員採用候補者選考試験説明会の開催・運営についても就職・学生委員会が管轄している。採用試験説明会は、年間20件程度が開催（2018（平成30）年度採用試験説明会19回）され、各教育委員会が求める人材像に照らして自己を省みる機会となっている（資料3-2-9）。

さらに、「教師力養成講座」「教師力養成演習」の内容は、全てDVDに記録され、教職相談室で視聴することができる。教職相談室には、書籍や資料が整えられており、学生が活用できるようになっている。

#### ④ 各講座等の取り組み

教員養成教育を受ける学生が主体的にキャリア形成を行うべく、各講座等でも組織体制やシステムを整えた取り組みがされている。実技を伴う科目については、通常の授業以外に体育実技練習会（器械運動、水泳等）の開催、音楽実技練習への支援（ピアノ室の開放等）を行っている。また、多くの講座等は、実務家教員等の協力を得ながら、採用試験での面接練習や模擬授業の支援、採用試験合格者の体験報告会の開催、幅広い教育観を持たせる取組み等により学生の主体的キャリア形成に関する支援体制を整えている。さらに、教職にかかわる学生対象の「コンプライアンス研修」を行う講座もある。

【総評】学生の心身の健康については、全学と学部組織及び指導教員が常に注意を払い、保持・増進を促すシステムが整っている。教職入職に関する情報提供については、キャリア形成に関わる教育を担う委員会と全学組織による支援体制が整備されている。また、各組織が企画・運営するガイダンスや研修講座は不断の検証と改善を含めてシステム化され、教職員が協同して手厚い履修指導に努めている。ただし、最近の教員就職率の低下傾向に対して、新たな取り組みが求められていると考える。したがって、基準3-2を「概ね満たしている」と評価した。

#### 《根拠となる資料・データ等》

〔資料1-3-2〕平成30年度教職相談室利用者数調・利用内訳

〔資料1-3-3〕岡山大学教育学部『教職ハンドブック2020』

〔資料2-2-1〕教員免許取得ガイド（2019年度入学者用）

〔資料3-2-1〕教育学研究科・教育学部の管理・運営体制

〔資料3-2-2〕教育学部建物平面図

〔資料3-2-3〕授業評価アンケート（学生用Web入力画面）

〔資料3-2-4〕2019年度教育実習・特別支援教育実習・養護実習 事前・事後指導計画

〔資料3-2-5〕学生支援窓口一覧

URL：<https://www.iess.ccsv.okayama-u.ac.jp/koudai-shien/wp-content/uploads/sites/5/2019/04/7ddbc51a5f75463a8c57682f800f4333-2.pdf>

短縮URL：<https://bit.ly/2st9wDZ>

〔資料3-2-6〕 保健管理センター・学生相談室ホームページ

URL : <http://www.okayama-u.ac.jp/user/hokekan/riyou.html>

URL : <https://www.iess.ccsv.okayama-u.ac.jp/koudai-shien/soudan/>

〔資料3-2-7〕 2017年度・2018年度「教採集中セミナー」実施状況

〔資料3-2-8〕 2018年度教員採用試験説明会 実施状況

## 基準領域4 大学教育の一環としての教員養成カリキュラムの運営

### 1 基準ごとの分析

#### 基準4-1 [大学としての自律性とスタッフ・教育課程の充実]

- 各教員養成機関は、大学としてふさわしい自律性を持ってカリキュラムを構成し、その中に教員養成教育を適切に位置づけること

##### [基準に係る状況]

#### ① 学士課程教育としての学生の質保証をふまえた教員養成

岡山大学教育学部では、大学全体の学士課程教育の理念にそった教員養成に取り組んでいる。そのため、岡山大学が自主的、自律的に設定をした卒業時に保証すべき学生の質であるディプロマ・ポリシーに基づいた教育課程を構築している。岡山大学のディプロマ・ポリシーは、教養、専門性、情報力、行動力、自己実現力から構成されている。教育学部ではこのことをふまえて、教員としての専門性に関わるディプロマ・ポリシーとして学習指導力（子どもの学習を指導する力量）、生徒指導力（子どもの生活を指導する力量）、コーディネート力（家庭・地域・同僚・諸専門家と協働する力量）、マネジメント力（教師として必要なマネジメントの力量）の4つの力を掲げるとともに、大学全体がディプロマ・ポリシーに掲げている教養、専門性、情報力、行動力、自己実現力も優れた教師の人格に欠かせない要素として捉え直し学部のディプロマ・ポリシーを設定した（資料1-1-1）。その上で、目指すべき教師像にそったカリキュラム・ポリシーを規定し、学士力の基盤のうに教員としての専門性を身につけさせる教員養成カリキュラムを構成している（資料1-2-2）。

#### ② 理論と実践の往還を軸とする「教員養成コア・カリキュラム」

教育学部の各専攻のカリキュラムは、教育実習や体験的授業科目を軸に、教員として必要な基礎的知識や技能を教授する授業科目を系統的に配置した「教員養成コア・カリキュラム」となっている。このカリキュラムでは、大学の授業での理論の理解と教育現場での実践を踏まえた省察を有機的に関連づけており、理論と実践の往還が学習の中で効果的に展開するようになっている。教育学部のカリキュラムは、先にも述べたように、教育実践力を構成する4つの力を形成することを目指している。

各科目は、これら4つの力のいずれかの形成を担うものとして設定されているだけでなく、教育実習や体験的授業科目と関連づけられ、教育実践力を総合的に育成することを目指している。教育学部では、学生の4年間の学習を「教職への意欲向上期」「教育実践理解期」「基礎的教育実践力養成期」「発展的教育実践力養成期」「採用前研修期」という5期に区分し、入門的な授業科目、教育実践を理解するための科目、そして、教育実習や体験的授業科目を系統的に配置し、卒業時には教員としての基礎的な力量が形成されていることを保障している。特に発展的教育実践力養成期には、主免実習及びそれを効果的にするための各種授業科目を配置し、さらに、採用前研修期には教職実践インターンシップと教職実践演習を設定して、教師としての実践的指導力を身につけられるようにしている（資料1-2-4、資料1-4-2）。

### ③ SDGs の理念にそった教員養成

岡山大学教育学部では、SDGs（持続可能な開発目標）の理念から、先に掲げた4つの力で構成される教育実践力をバランスよく身につけた反省的で創造的な教員を養成するという全学の教職課程にも共通する考え方に基づいて、ESD及び地域教育等の教育の現代的課題に応える教員養成も行っている。

まず、ESDについては、FD委員会主催の研修会を開催するなどESDの理念等について全教員に対する共通理解を図る努力を徹底して行ってきた。また、2014（平成22）年度にESDに関するユネスコ世界会議を開催した岡山市の活動に協力し、市とともにESDの学校教育への普及と、その理念を取り入れた教員養成のあり方を追求してきた（資料1-2-6、資料4-1-1）。

具体的には、必修科目である「教育の制度と社会」においてESDを取り上げ、全ての学生のESDの考え方に対する理解を深めるとともに、教科指導に関わる専門科目においても教科の内容とESDの関連について理解を促している（資料4-1-2）。また、2019年度には“2019 Global Conference on Teacher Education for ESD（ESD教師教育国際会議）”を開催し、ESDに関わる教員養成の強化を図っている（資料4-1-3）。

次に、地域教育については、2018年度から学校教育教員養成課程・養護教諭養成課程に地域教育専修を設置している。その中で、学校づくりと地域づくりの持続可能な好循環を促すことのできる教員養成のために、「岡山県北地域教育プログラム」を開発し、実施してきた（資料4-1-4、資料4-1-5）。具体的には、地域の学校との協働に関わる新たな授業科目「地域学校協働研究」や、特定地域に深く関わる実習「地域学校協働フィールドワーク」などを多数開講し、地域密着型の学びを岡山大学、教育委員会、ホームタウン（岡山県北の特定地域）との連携の中で実現している（資料1-2-5）。

### ④ 教師教育開発センターとの連携に基づく「教科構成学開発事業」の推進

教育学部では、全学の教員養成を支援する教師教育開発センターの協力のもとで、附属学校とも連携をしながら教員養成改革事業の一つとして、2011（平成23年）度より「教科構成学開発事業」に取り組んできた。その事業の一環として教科内容構成指導法ハンドブックを作成し、教員養成の問題として従来から指摘されていた教職専門と教科専門の間の溝を埋めるための取り組みの成果を全教員で共有している（資料4-1-6）。こうした取り組みの成果として、2019年度には、教職専門の担当者と教科専門の担当者の協働による新たな科目「教科内容構成」を、1年次と3年次に新設し、教科の深い理解を目指した授業を展開している。また、教科内容構成に関する学部全体のFD研修会を、教育学部FD委員会主催で定期的に開催して、教員の啓発に努めている（資料4-1-7）。

### ⑤ 現代的な教育課題に応える新システムの導入

岡山大学では、現代の高等教育が直面している課題に応えるため、教育システムの改善を進めてきており、教育学部も主体性を持ってそれに関わり全学の改革をリードしている。その一つが、授業科目を領域ごとにレベル分けし系統性を明確にするナンバリングであり、これによって教員養成コア・カリキュラムの全体像が一層明確になっている。また、岡山大学では2016（平成28）年度から60分・クォーター制が導入されている。教育学部では、クォーター制の導入にともなってカリキュラムの見直しに取り組み、教育の質保証の観点から教員養成カリキュラムの改善に

努めてきた（資料1-2-7，資料1-4-3）。

【総評】教育学部の教員は、「教員養成コア・カリキュラム」，「教科構成学開発事業」，「SDGsの理念に沿った教員養成」などの先進的な取り組みを遂行しながら，各授業科目の教員養成における位置づけや役割を常に見直し，改善のための努力を組織的に行っている。また，そのような教員の主体性を，全学の付属施設である教師教育開発センターとの強い連携や，学部FD委員会の積極的な活動が支えている。以上のようなことから，基準4-1を「十分に満たしている」と評価できる。

《根拠となる資料・データ等》

- [資料1-1-1] 岡山大学教育学部ディプロマ・ポリシー  
URL：<http://www.okayama-u.ac.jp/tp/profile/dp-edu.html>
- [資料1-2-2] 岡山大学教育学部カリキュラム・ポリシー  
URL：<http://www.okayama-u.ac.jp/tp/profile/cp-edu.html>
- [資料1-2-4] 教員養成コア・カリキュラム  
URL：<https://edu.okayama-u.ac.jp/faculty/curriculum/>
- [資料1-2-5] 2019年度岡山大学教育学部シラバス「フィールド・チャレンジA.B①~③」  
URL：<https://gs.okayama-u.ac.jp/ex/index.html>（授業科目入力）
- [資料1-2-6] 平成26年度連携協力事業研究報告書 52-53ページ  
URL：[www.okayama-u.ac.jp/user/cted/outline/3.html](http://www.okayama-u.ac.jp/user/cted/outline/3.html)
- [資料1-2-7] ナンバリング  
URL：<http://www.okayama-u.ac.jp/tp/student/numbering.html>
- [資料1-4-2] 教育学部カリキュラムマップ  
URL：[http://www.okayama-u.ac.jp/upload\\_files/freetext/gakumu-gakushi1/file/cp-edu.pdf](http://www.okayama-u.ac.jp/upload_files/freetext/gakumu-gakushi1/file/cp-edu.pdf)  
短縮URL：<https://bit.ly/37fL1sH>
- [資料1-4-3] 岡山大学の教育改革「学びの強化」～60分授業・クォーター制導入～  
URL：[http://www.okayama-u.ac.jp/user/ei/pdf/60q\\_press1.pdf](http://www.okayama-u.ac.jp/user/ei/pdf/60q_press1.pdf)
- [資料4-1-1] FD研修会資料「2014年ESDに関するユネスコ世界会議について」
- [資料4-1-2] 平成31年度教育学部シラバス「教育の制度と社会」
- [資料4-1-3] 2019 Global Conference on Teacher Education for Sustainable Developmentの案内
- [資料4-1-4] 2019年度岡山県北地域教育プログラム案内  
URL：<https://edu.okayama-u.ac.jp/faculty/?action>
- [資料4-1-5] 学校づくりと地域づくりの持続可能な好循環を促す教員養成～教育学部・岡山県北地域教育プログラム～  
URL：<https://sdgs.okayama-u.ac.jp/efforts/detail.php?seq=67>
- [資料4-1-6] 教科内容構成指導法ハンドブック
- [資料4-1-7] FD研修会資料「教員養成教育における教科内容構成学構築の必要性和本学部の取り組み」

#### 基準4-2 [創造的な課題発見・課題解決を促す修学環境や授業方法の充実]

- 各教員養成機関は、教員養成教育のカリキュラムにおいて、学生自らが創造的に課題を発見し、解決する主体的な学びを構築するような方策を講じること

##### [基準に係る状況]

教育学部のカリキュラムは、理論習得を目指した科目と、その理論を活用する実践的体験的な科目を系統的に配置することによって、カリキュラム全体として、学生が創造的な課題発見・課題解決に取り組みながら教師としての資質を高めていくことができるものとなっている。

##### ① 学生の課題発見力の向上を目指した取り組み<1>

教育学部のカリキュラムの中で、段階的に配置された教育実習は、学生の創造的な課題発見を促すために重要な役割を果たしている。教育実習は、観察・参加中心の「教育実習Ⅰ」から、実習に行くために必要な基礎的知識や技能を大学の教員や実習を担当する現場の教員から学ぶ「教育実習Ⅱ」、そして、実際に附属学校の現場で実践する「教育実習Ⅲ」（4週間）を1年次から3年次まで配置している（資料4-2-1，資料4-2-2）。このように構成された教育実習での実践とその振り返りを通して、教員としての資質・能力を身につけていく上での自己課題に気づき、その解決を意識しながら学修することができるようになっている。

教育実習と同様に学生の課題意識の明確化に寄与している科目が、学校支援ボランティア等の体験を中心に構成されている「フィールド・チャレンジ」などの授業科目である。「フィールド・チャレンジ」では、学生一人ひとりが、自らの興味関心に基づいて教育現場でのボランティアに取り組み、幼児、児童、生徒や教師等と直接交流する中で、教員としての専門性に関する自己課題を発見することが目指されている（資料1-2-5）。

以上のようなカリキュラム構成によって、学生が豊富な体験を通して教育の実態にふれることができているものの、大学の授業で学ぶ理論と実習における実践が十分に関連づけられていないという課題も見られる。そのため、大学の授業における理論と実習をはじめとする教育実践の関連性の改善や、理論と実践の往還の中から学修した内容の定着を図る授業方法の工夫に取り組んでいる。

##### ② 学生の課題発見力の向上を目指した取り組み<2>

教育学部では、大学での授業においても学生の創造的な課題発見を促す工夫を積極的に取り入れている。その一つが、全学で行われている学生の意見を取り入れたFD活動である。例えば、双方向性のある授業を実現するために全学で取り入れられている e-Learning システム「岡山大学Moodle」を活用するなどして、学生の意見を授業改善に反映させている。これにより、一人ひとりの学生とのやりとりを通して、学生自身が当該授業に対して課題意識を持って取り組むことができるような支援が実現できている（資料4-2-3）。

##### ③ 学生の課題発見力の向上を目指した取り組み<3>

授業科目以外の取り組みとして、まず「教職ガイダンス」が挙げられる。県内の教員や卒業し



た先輩の現職教員，教育委員会の方を招いて，教職のやりがいや魅力を伝えたり，交流したりする場を設けている。

また，各講座においては，自主的に，附属学校教員や卒業した先輩の現職教員も参加をする研究会を開催し，学生と現職教員の意見交換の場を設けている。現場で活躍する教員との直接的な対話は，学生自身の教職を目指す意欲の向上に大いに役立っている。

このような取り組みはカリキュラムに正式に位置づけられたものではないが，他の授業科目との関連を明確にしたうえでカリキュラムに位置づけ，より多くの学生が参加できるものとするよう改善に取り組んでいる（資料4-2-4）。

#### ④ 学生の創造的な課題解決を促すインターンシップと連動した教職実践演習

教育学部のカリキュラムにおいては，一般的な講義形式の授業だけではなく，演習や実験を含む授業科目を設定して，カリキュラム全体で学生の主体的な課題解決を支援している。特に，4年次に設置され，学生が主体的に設定した課題の解決に公立学校の現場で取り組む「教職実践インターンシップ」は，「教職実践演習」と連動しており，前者での経験を，後者の中で振り返り，さらにそこで新たな課題を発見し，再度インターンシップに臨むというサイクルの中で，4つの力から成る教員としての実践的指導力を螺旋的に向上させていくことを目指している。

「教職実践インターンシップ」と連動した「教職実践演習」は，本学部における教員養成教育の特徴の一つともなっているが，インターンシップの内容が，学生が派遣された学校によって，質的にも量的にも大きな相違が見られることから，学生によっては十分な課題解決にまで至らないケースもある。そのため，派遣先の学校との連携を密にするとともに，質の高い体験ができるようにインターンシップの内容について派遣先の教員との協議を重ね，実習内容の改善に取り組んでいる（資料1-1-4，資料4-2-5）。

#### ⑤ 領域を越えた教員の協働的な授業による創造的な課題解決の促進

学生の創造的な課題解決を促す取り組みは，各講座によっても積極的になされており，その一つが，教育学部が独自に設定している各教科の「指導法開発」及び「内容開発」の授業である。3年次に設けられているこの授業は，教育実習の前または後に設定されており教育実習の学習効果を一層高めることを目指している。例えば，数学教育専修では，教職専門と教科専門の教員の連携のもとで，学生の主体的な取り組みを尊重した課題解決型の授業科目が実施されている。その授業では，教育実習を終えた4年生とこれから実習を迎える3年生と一緒にチームを組んで履修をし，理論に関する指導を受けた後に指導計画の作成と模擬授業，そして模擬授業の分析・批評という作業に取り組んでいく。その成果に対して教職専門と教科専門の教員がそれぞれの立場から意見を述べ，学生の課題探究への意欲を高めている（資料4-2-6）。

2019年度入学者からは，新しい教育職員免許法に対応して，これまでのカリキュラムを発展的に再構成し，新しい科目のもとで取り組みを継続・発展させている。

#### ⑥ 学生一人ひとりの個性的な学びに対応した修学環境の整備

教育学部では，より効果的な指導を実現するために，少人数指導や，課題探究型の授業などを積極的に取り入れている。また，学生の主体的な取り組みを保障するために，講義形式の一斉指導だけではなく，小集団による討論を取り入れた学習，学生のプレゼンテーションを中心とする

学習、社会参画を伴う実践的体験的な学習など多様な授業形態を、その科目の目的や内容に応じて積極的に取り入れている。それを支えるための環境として、大講義室から少人数の演習室まで多様な形態の教室を整備しているだけでなく、プロジェクターをはじめとする映像機器など教育効果を高める教師の工夫を支える条件が全ての講義室で整えられている。さらに、ICT教育を積極的に導入するため、建物内においてインターネットにどこでも容易に接続できるように無線LAN設備が整えられている。

授業外の学生の自主的学習を促進するための環境としては、学生の予習復習を支援するための図書の整備が進んでおり、講座によっては学生が利用できる図書室を設置している。また、全学で利用されているe-Learningシステムの「岡山大学 Moodle」を活用し、インターネットを通じた双方向授業を多くの教員が展開し、授業時間外の学生の自己学習を促進するとともに、その活用のための教員の研修も全学的に行われている（資料4-2-3、資料4-2-7）。

【総評】教育学部では、各教員が、多様な形態の指導法を取り入れた授業を導入しており、創造的な課題発見・解決の能力の育成に取り組んでいる。また、教育現場との連携に基づく実践的体験的な授業科目や教育実習と、教育理論に関する基礎的知識を教授する授業を有機的に関連させて、主体的な学びを構築しながら、教育現場において課題解決に向けて積極的に行動することができる教員を育成している。このような取り組みを支えるためのハード面及びソフト面の環境が整備されている。これらのことから、基準4-2は「十分に満たしている」と評価できる。

《根拠となる資料・データ等》

〔資料1-1-4〕平成31年度『教職実践演習ハンドブック』

〔資料1-2-5〕2019年度岡山大学教育学部シラバス「フィールド・チャレンジA・B①～③」

URL: <https://gs.okayama-u.ac.jp/ex/index.html> (授業科目入力)

〔資料4-2-1〕平成31年度教育学部シラバス「教育実習Ⅰ～Ⅲ」

URL: <https://gs.okayama-u.ac.jp/ex/index.html> (授業科目入力)

〔資料4-2-2〕岡山大学教育学部『平成31年度教育実習Ⅰの手引き』

〔資料4-2-3〕岡山大学 Moodle

URL: <https://moodle.el.okayama-u.ac.jp/>

URL: <http://www.momo.cs.okayama-u.ac.jp/~sasakura/jikken/2018/MoodleQ.pdf>

短縮 URL: <https://bit.ly/37gIyhE>

〔資料4-2-4〕教職ガイダンスの案内、岡山社会科授業研究会の案内

〔資料4-2-5〕平成31年度教育学部シラバス「教職実践インターンシップⅠ・Ⅱ」

URL: <https://gs.okayama-u.ac.jp/ex/index.html> (授業科目入力)

〔資料4-2-6〕課題探究型授業の実践事例（中等数学科指導法開発A）

〔資料4-2-7〕講義室の設備設置状況

## 基準領域5 子どもの教育課題と大学教育との関連づけ

### 1 基準ごとの分析

#### 基準5-1 [学校現場への理解と教育実習の充実]

- 各教員養成機関は、学校現場についての理解を醸成するとともに、その理解に基づく適切な実習プログラムを設定し、運用すること

##### [基準に係る状況]

#### ① 地域の教育課題に対応した教員養成システム

岡山大学教育学部では、2017（平成29）年度より「岡山県北地域教育プログラム」を創設し、県北地域における少子高齢化と人口減少に起因する教育課題に対して、教員養成・採用・研修の一体化を目指す新たな教員養成に取り組んでいる。岡山県北地域に若手教員が定着しないことも鑑み、推薦入試によって県北の教員になろうとする学生を募集し、ホームタウンでの4年間の学びを大学・行政・学校で協働的に解決する教員養成プログラムを実行している（資料4-1-4）。

また、本学部では、2006（平成18）年度より岡山県教育委員会と協議を重ねて「教員養成コア・カリキュラム」を開発・運用する中で、教育実習を1年次から4年次まで、附属校園および公立校園において継続的・系統的に実施している（資料1-1-3、資料4-2-1）。

教育実習の事前・事後指導では、岡山市・岡山県教育委員会担当者より、岡山県の教育状況や課題について指導を受けるとともに、そこでの協議を踏まえた実習プログラムの改善に継続的に取り組んでいる。

#### ② 公立学校園での教育実習等

本学部では、附属学校園だけでなく、公立学校園における教育実習を実施している。具体的には、2年次の県立特別支援学校での実習（教育実習Ⅰ）と4年次の教職実践インターンシップを必修としている。

県立特別支援学校においては、2年次の2日間、子ども理解の拡張・深化を図り、特別な教育的支援が必要な児童生徒の理解と支援の基礎を身につけることを目指した観察・参加実習を行う（資料4-2-2）。

教職実践インターンシップでは、3年次までの教育実習で身につけた自らの教育実践力を自己評価して自己課題を定め、公立の協力学校園での教育実践に取り組み、実践的指導力の統合・深化を図っている。岡山市内の公立学校園に加えて倉敷市、総社市、赤磐市、さらに県北（新庄村・勝央町）等の県内広域において、公立学校園（38校園）と協力しながら、多様な学校理解できるように連携を強化している。また、特別支援学校や小中学校の特別支援学級における児童生徒をはじめ、通常の学級における特別な教育的支援を必要とする児童生徒の指導を通して、多様な児童生徒理解ができるような実習も展開している。公立学校園における実習形態については、長期分散型実習（週1回程度、40時間以上）を採っており、「教職実践演習」（4年次必修）と連動させながら、自らの教育実践を振り返り、省察する中で、教育実践力を高めることを目指している（資料4-2-5）。学生は、公立学校園での教育活動全般に関わることによって、学校現場の実態や多様な児童生徒の実態に関する理解、生徒指導力等の育成といった自己課題の解決に向けた

取り組みが可能となっている（資料5-1-1）。

### ③ 教育実践力を高める附属学校園で行う教育実習

附属学校園での教育実習は、まず、教職への意欲を高め、子どもの発育・発達過程を理解するため、学生が所属するコースや課程にかかわりなく、1年次に附属4校園で観察・参加実習（4日間）を行う。その際、附属学校園と学部教員で構成される教育実習専門委員会による事前・事後指導等を通じて、学生自らが目指す教員像を具体的にイメージできるように配慮している。

3年次には、「教育実習Ⅱ（教育実習基礎研究）」と「教育実習Ⅲ」が行われる（資料4-2-1）。「教育実習Ⅱ」は、「教育実習Ⅲ」の事前・事後指導として、附属校園における授業観察、授業実践計画、模擬授業、授業分析等を通じて、教育現場で教師として活動する準備を行うとともに、岡山市・岡山県教育委員会による講話により、地域の教育現場についての理解を深めている。「教育実習Ⅲ」では、コース・課程に対応する学校種において4週間の教育実習を展開する。各週の目標を「授業を体験する（1週目）」「授業の流れを知る（2週目）」「教材研究・目標分析の仕方（3週目）」「学習指導と学級経営の調和（4週目）」と設定し、系統的かつ綿密な計画のもとに、教育実践力の基礎を段階的に身につけている。しかし、①でも述べたように、今後、より岡山県の教育状況や課題を踏まえた実習プログラムの改善に取り組むことが求められ、実習プログラムの本質的・抜本的な改善に向けた検討が必要である。教育実習後には「指導法開発」の授業を配置し、教育実習における学びを深化させるようにしている。

### ④ ポートフォリオを活用した教育実習における課題の明確化

本学部では、1年次から4年次まで、教育実習の評価の指標を示した教職実践ポートフォリオを活用して事前・事後指導を行っている。主実習である3年次実習の事前では、教育実習専門委員会による指導を受け、学生がポートフォリオの各項目にチェックして自己評価し、実習の準備性を確認した後、各学生の指導教員の指導により、実習での課題を明確にしている。実習の事後には、指導教員が学生の実地授業やポートフォリオの記述内容等の情報を基に学生指導を行い、今後の課題の明確化を図っている。3年次教育実習後の学生の自己評価を見ると、子どもの学習実態の把握、学習指導案の作成、子どもの反応を踏まえた授業、授業の省察については8割程度の学生が「十分できる」「できる」としているが、学校における連携の在り方が7割、学校組織理解は5割程度にとどまっている〔資料5-1-4〕。

【総評】教育学部では、教員養成コア・カリキュラムにより編成された授業科目配置と4年間を通じた継続的・系統的な教育実習プログラムおよび岡山県北地域教育プログラムの創設による地域の教育課題への対応から、基準5-1を「十分に満たしている」と評価できる。

《根拠となる資料・データ等》

〔資料1-1-3〕教職実践ポートフォリオ（第2版）

〔資料4-1-4〕2019年度 岡山県北地域教育プログラム案内

URL: <https://edu.okayama-u.ac.jp/faculty/?action>

〔資料4-2-1〕平成31年度教育学部シラバス「教育実習Ⅰ～Ⅲ」

URL: <https://gs.okayama-u.ac.jp/ex/index.html>（授業科目入力）

〔資料4-2-2〕岡山大学教育学部『平成31年度教育実習Ⅰの手引き』18-21 ページ

〔資料4-2-5〕平成31年度教育学部シラバス「教職実践インターンシップⅠ・Ⅱ」

URL: <https://gs.okayama-u.ac.jp/ex/index.html> (授業科目入力)

〔資料5-1-1〕平成23～27年度文部科学省特別経費事業「先進的教員養成プロジェクト」中間報告会・シンポジウム配付資料「H25 教職実践インターンシップの成果と課題」

〔資料5-1-2〕教育学部教育実習改革ワーキンググループ第5回会議資料：別紙2

## 基準5-2 〔体験の省察・構造化の充実に関する工夫〕

- 各教員養成機関は、教員養成教育の中に様々な体験活動を適切に位置づけるとともに、あわせてその体験を省察し、構造化する機会を提供すること

### 〔基準に係る状況〕

#### ① 教職実践インターンシップと教職実践演習による理論と実践の往還

繰り返し述べているように、本学部は、教職実践インターンシップを必修化し、教職実践演習と連動させることにより、理論と実践の往還的な学びができるようにしている。教職実践演習では、配当校ごとに省察を行う会を設け、同じ対象を観察しながら、観点を広げるようにしている。具体的には、教職実践演習による自己課題の明確化、グループディスカッションによる学びの深化を図る。自己の実践を語ることによる学び、他者からの評価や意見をもらうことによる語り直しにより自己課題を顕在化させるシステムを構築している。さらに、教職実践ポートフォリオを活用し、学びの成果のとらえ直しと新たな問いの創造を図っている。

教職実践インターンシップにより、学生は、自己課題に応じた多様な体験ができる。ただし、課題意識の高い学生にとっては主体的に学べるシステムであるが、課題意識の低い学生に対する個別支援が課題として残っている。指導体制とともに、実施場所や活動内容などの面からの検討も必要である。

教職実践インターンシップ終了後には、毎年、学部、各教育委員会、協力校園とで、反省会を実施し、受け入れ校園と学生に行ったアンケート調査の結果を三者で共有し、次年度の改善点を検討している（資料5-2-1）。

#### ② 多様な体験的活動科目の設定

学生が教育現場での体験的活動に主体的に取り組むことができるよう、多様な「フィールド・チャレンジ」科目を設定している（資料1-2-5）。また、教師教育開発センターと連携し、学生のニーズに応じて、教育現場でのボランティア活動に参加できるようにしている。新たにバレオ(VAREO)岡山市学校支援ボランティアを組織化し、さらに機会の充実に図っている（資料5-2-2）。このことに関連して、学生がボランティア活動を理解し積極的な取り組みを促す観点から、本学部が教師教育開発センターとともに主催する「岡山大学スクールボランティアフェア」では、各教育委員会や教育団体が多数集まり、学生と直接交流・対話を行ってきた（資料5-2-3）。

さらには、学部学生に対して、グローバル特別実習やインターナショナルチャレンジなど、海外での学習機会を準備し、希望者に対して日本の教育を相対化する視点を獲得できるように、授業



科目が設定されている。これまでに、カンボジア、フィリピンなど様々な国と地域で体験的活動が実施されている。

【総評】「教職実践インターンシップ」や「フィールド・チャレンジ」などの授業科目設定や、学生ボランティア活動への支援などの状況から、基準5-2を「十分に満たしている」と評価できる。

《根拠となる資料・データ等》

〔資料1-2-5〕2019年度岡山大学教育学部シラバス「フィールド・チャレンジA・B①~③」

URL: <https://gs.okayama-u.ac.jp/ex/index.html> (授業科目入力)

〔資料5-2-1〕平成30年度教職実践インターンシップ・教育実習反省会資料

〔資料5-2-2〕スクールボランティアのご案内

URL: [https://www.okayama-u.ac.jp/user/cted/school\\_volunteer/3.html](https://www.okayama-u.ac.jp/user/cted/school_volunteer/3.html)

〔資料5-2-3〕岡山大学スクールボランティアフェア2017開催案内

URL: [http://www.okayama-u.ac.jp/user/cted/event/index\\_id2.html](http://www.okayama-u.ac.jp/user/cted/event/index_id2.html)

### 基準5-3 [教育関連諸機関との連携・協力体制の構築と充実]

○ 各教員養成機関は、教員養成教育を提供するに際し、教育関係の諸機関と適切な連携・協力体制を構築し、それを恒常的に改善していること

[基準に係る状況]

#### ① 岡山県・岡山市・倉敷市教育委員会との協働

現在、学校教員の年齢構成、学校が担う役割や発生する事案の多様化、教員の多忙化等の要因により、教員の職能成長を支える仕組みが機能し難くなってきており、養成と研修の一体化を視野に入れた教員養成教育が必要とされている。本学部は、教師教育開発センターとともに、教員の養成および資質・能力の向上並びに教育上の諸課題に対応するため、岡山県教育委員会並びに岡山市教育委員会と連携協力を進めるための包括的な協定書を締結している(資料1-2-6)。

こうした連携協力の成果として、例えば、平成23~27年度文部科学省特別経費事業「先進的教員プロジェクト」並びに平成24・25年度「教育委員会との連携・協働による初任者研修支援プログラム開発事業」として、岡山県・岡山市に倉敷市を加えた各教育委員会との協働により、初任期若手教員を対象とした「授業力パワーアップセミナー」を実施してきた。教師教育開発センターとともに開催されるこのセミナーでは、初任期教員の課題を解決するとともに、調査・研究を重ね、養成教育として何が求められているのかを大学・教育委員会と合同で把握し、養成教育の改善に役立てている。さらに本事業終了後には、実施評価を踏まえ、教職員支援機構の委嘱事業・平成30年度「若手教員の資質向上のための研修プログラム開発支援事業」として、岡山県教育委員会・津山教育事務所との協働により、若手教員を含むOJTチームによる授業改善の取り組みを学校の組織的活動に位置付け、津山教育事務所管内を中心に発展的に継続実施されている(資料5-3-1)。

加えて、岡山県教育委員会、岡山教育事務所、津山教育事務所、津山市・真庭市・新庄村・新

見市・高梁市・勝央町の各教育委員会と連携協働しながら、大学での授業「地域学校協働研究」を実施している。美作地区市町村教育委員会連絡協議会等でのワークショップ・シンポジウムを実施し、岡山県の教員養成について、ともに考える機会を持っている。

## ② 理数系中核教員（CST）養成の推進

岡山県・岡山市・倉敷市教育委員会と協働し、2010（平成22）年度より理数系中核教員（コア・サイエンス・ティーチャー：CST）養成プログラムを開発・実施している（資料1-2-6）。CST養成プログラムでは、現実の小・中学校理科の授業で有効な教材や授業の基礎と応用を学ぶとともに、将来、地域の教員に対する理科研修を担うことも意識させてプログラムを構成している（資料5-3-2）

こうした連携・協力の成果の一つとして、2014（平成26）年度より、岡山県教員採用試験でCST特別選考枠（1次試験免除）が設けられた。また、2015（平成27）年度には、教育委員会からの要望を受け、学部卒業時に取得できる初級CSTを新たに設定した。

プログラムの実施や恒常的な改善のために、岡山県、岡山市、倉敷市教育委員会も参加するCST運営委員会を開催し、地域との連携・協力体制の中で充実を図っている（資料5-3-3）。

## ③ 岡山市との連携による持続発展教育（ESD）への取り組み

岡山大学教育学部では、学校教育および地域でのESDの推進を支援することを目的として、2010年度にESD協働推進室を設置し、岡山市を中心とした学校教育および地域のニーズに合致したESDの取り組みを積極的に実施してきた。

この事業において、岡山市立学校のESD実践の拡大に向け、推進校連絡研修会における講師や推進校の授業づくりに関する実践支援（指導助言、学生派遣等）、実践事例集の作成支援等の具体的な協力を行っており、岡山市内各校のESDの充実・発展に大きく貢献している（資料1-2-6）。この成果を活用し、本学部では必修科目である「教育の制度と社会」においてESDを取り上げるとともに、ESDの観点から理論と実践を往還する教員養成教育を行っている（資料4-1-1、資料4-1-2）。

また、2019（令和元）年度には岡山大学およびESDに関する教師教育機関国際ネットワークの主催により「ESD教師教育世界大会」を開催している。この会議では、ESDの教師教育に係る大学、学校、教育委員会等の関係者、ユネスコ関係者が世界39か国から約200人参加し、各国の現状と課題の発表がなされた。そこでは岡山大学教育学部教員の活動のもと、ESDの教師教育に関わるグローバルフレームワークについての共有と議論、および発信が行われた。最終日には岡山市の協賛により、岡山大学附属小学校・中学校および認定こども園・中学校・公民館の視察が実施された。

【総評】教員養成コア・カリキュラムの構築、教職実践インターンシップの開発と実施、CST養成プログラム等の次世代に必要な養成プログラムの開発と実施、岡山市のESD実践の充実への貢献、学生の学校支援ボランティアへの取り組みの促進などを通じて実現している。特に、連携協力に関する覚書・協定書に基づき、教育委員会・学校教育現場と協働し改善する仕組みが定着していることは本学部の特徴と言える。したがって基準5-3を「十分に満たしている」と評価できる。

《根拠となる資料・データ等》

〔資料1-2-6〕平成26年度連携協力事業研究報告書 6-21, 52-55, 62-63 ページ

URL : <https://www.okayama-u.ac.jp/user/cted/outline/3.html>

〔資料4-1-1〕FD研修会資料「2014年ESDに関するユネスコ世界会議について」

〔資料4-1-2〕平成31年度教育学部シラバス「教育の制度と社会」

URL: <https://gs.okayama-u.ac.jp/ex/index.html> (授業科目入力)

〔資料5-3-1〕『授業力パワーアップセミナー報告書』2019年3月

〔資料5-3-2〕岡山CST養成プログラム (CST岡山) 一学生CST養成プログラムのご案内一

〔資料5-3-3〕岡山理数系教員 (CST) 養成拠点構築事業実施報告書 (平成30年度) 1-12  
ページ

## 2 特記すべき事項

本学部と岡山県・岡山市教育委員会が、教員の養成および資質・能力の向上並びに教育上の諸課題に対応するために締結した連携協力に関する覚書・協定書に基づき、毎年、連携協力会議、専門部会を開催して協議するとともに、双方で連携しながら各事業を実施している。これにより、本学部と各教育委員会並びに学校園とが緊密に連携協力し、地域の教育課題に対応できる教員を養成する教育の充実が図られている。



#### IV 自己分析書の作成過程

今回の外部評価は、全学からの通知「外部評価の実施について（依頼）」（令和元年8月6日付）を受け、先ず8月及び9月の研究科長室会議にて大枠が検討された。期間が短く、資源が限られていたことから、一般財団法人教員養成評価機構（以下、機構）が提案する自己分析書の作成を中心に、効率的かつコンパクトな外部評価を試みるという方向性が確認された。既に本学部では、平成27年、機構による認定評価の前身である東京学芸大学教員養成評価開発研究プロジェクト「教員養成教育認定評価システム」による評価を受け、多くの学びを得ている。これを活かす取り組みが模索されることとなった。本自己分析書は、今後の岡山大学教育学部における教員養成の在り方を検討し、具体的な改革を進めていくための問題把握を主な目的としており、それに基づく改革の成果を含めた外部評価の受審に向けた「中間報告」と位置づけられる。

10月の教授会において、主旨と実施方法の概略について学部および教師教育開発センターの全教員に説明をした。4年前の経験から、関係教職員には、外部評価と自己分析書の作成に関する一定の理解が形成されていたと言える。準備期間を経て、11月上旬の研究科長室会議では、実施要領の具体が示され、実際の取り組みが開始された。

次に、前回と同様に、学部教員によるワーキング・グループを組織した。グループは、基準領域ごとに5グループとし、各グループの責任者には前回の経験を有する教授を充て、学部を構成する全16講座から、教員の専門・年齢・性別・委員歴などを考慮し、各グループ4～5名のメンバーが選出された。また、研究科長の指示により、各グループには必ず若手教員を加え、自己分析の経験やスキルが次世代に継承されるよう構成された。

11月半ばにワーキング・グループの責任者等による、進め方に関する会議を持った。そこでは、今回の外部評価の目的や意義を再確認し、これまで行ってきた教員養成教育を総体として捉え、その特質を改めて洗い直すことを確認した。また、担当教員の負担を抑え、効果的な外部評価を試みるため、前回作成の自己分析書に加筆修正を加える形で進めること等を確認した。自己分析書の作成にあたっては、各グループにおいて前回作成の自己分析書に基づく検討がなされた。具体的には、ハンドブックに示された【基準】【観点】【取り組み例】に基づいて本学部で対応する事象を再検討し、4年間の変化と成果の確認がなされた。根拠となる情報や資料収集等を行い、各基準領域の自己分析書の改訂案が作成された。

さらに、12月末にかけて、各基準領域の自己分析書案を統合し、全体を通して用語や資料等の整理を行い、最後に研究科長室のメンバーによる校閲を経て自己分析書の作成を終えた。

この自己分析書の作成過程から、本学部では、学部の理念を踏まえ、時代や地域の要請を受けとめながら、実践的指導力を有した教員養成を目的として独自に構築してきた「コア・カリキュラム」と「教科内容構成研究」により具現化しようとしており、それは、「学生の協同的な学び」と「地域の関係諸機関との連携による協働」により実現が図られようとしていることを確認した。地域の教育課題に対応できる教員を養成する「岡山県北地域教育プログラム」の挑戦は、この流れの中にあり、本学部の方向性を示す取り組みの一つと言える。

今後は、2月末に外部評価者を招いて開催されるFD研修を通じて、自己分析書の結果を全教員で共有する。このFD研修には、機構から関係者にもご参加いただくことになっている。また、それを踏まえて最終的な省察や今後の課題確認の機会を持つ予定である。

## 根拠となる資料・データ等一覧

### 基準領域 1 構成員の合意に基づく主体的な教員養成教育の取り組み

- [資料 1-1-1] 岡山大学教育学部ディプロマ・ポリシー  
URL : <http://www.okayama-u.ac.jp/tp/profile/dp-edu.html>
- [資料 1-1-2] F D 研修会開催記録・授業公開の記録 (F D 委員会の年次活動報告)
- [資料 1-1-3] 教職実践ポートフォリオ (第 2 版)
- [資料 1-1-4] 2019 年度「教職実践演習」ハンドブック
- [資料 1-2-1] 岡山大学教育学部アドミッション・ポリシー  
URL : <http://www.okayama-u.ac.jp/tp/admission/policy16.html>
- [資料 1-2-2] 岡山大学教育学部カリキュラム・ポリシー  
URL : <http://www.okayama-u.ac.jp/tp/profile/cp-edu.html>
- [資料 1-2-3] 岡山大学教育学部 2020 年度学部案内  
URL : <https://edu.okayama-u.ac.jp/faculty/?action>
- [資料 1-2-4] 教員養成コア・カリキュラム  
URL : <https://edu.okayama-u.ac.jp/faculty/curriculum/>
- [資料 1-2-5] 2019 年度岡山大学教育学部シラバス「フィールド・チャレンジ A・B ①~③」  
URL : <https://gs.okayama-u.ac.jp/ex/index.html> (授業科目入力)
- [資料 1-2-6] 平成 26 年度連携協力事業研究報告書  
URL : <https://www.okayama-u.ac.jp/user/cted/outline/3.html>
- [資料 1-2-7] ナンバリング  
URL : <http://www.okayama-u.ac.jp/tp/student/numbering.html>
- [資料 1-2-8] 2019 年度教育学部シラバス「地域学校協働アクティブスタディ A」(一例)  
URL : <https://gs.okayama-u.ac.jp/ex/index.html> (授業科目入力)
- [資料 1-2-9] 2019 年度岡山大学教育学部『学生の手引』
- [資料 1-3-1] 1 年生に対する教職や専修 (専門) への導入・補完などに関する講座の取り組み
- [資料 1-3-2] 平成 30 年度教職相談室利用者数調・利用内訳
- [資料 1-3-3] 岡山大学教育学部『教職ガイドブック 2020』
- [資料 1-3-4] 平成 30 年度連携協力事業研究報告書  
URL : <https://www.okayama-u.ac.jp/user/cted/outline/3.html>
- [資料 1-4-1] Q-cum System【学士課程教育構築システム】  
URL : <https://www.iess.ccsv.okayama-u.ac.jp/hedi/q-cum/>
- [資料 1-4-2] 教育学部カリキュラムマップ  
URL : [http://www.okayama-u.ac.jp/up\\_load\\_files/freetext/gakumu-gakushi1/file/cp-edu.pdf](http://www.okayama-u.ac.jp/up_load_files/freetext/gakumu-gakushi1/file/cp-edu.pdf)  
短縮 URL : <https://bit.ly/37fL1sH>
- [資料 1-4-3] 岡山大学の教育改革「学びの強化」～60 分授業・クォーター制導入～  
URL : [http://www.okayama-u.ac.jp/user/ei/pdf/60q\\_press1.pdf](http://www.okayama-u.ac.jp/user/ei/pdf/60q_press1.pdf)
- [資料 1-4-4] ESD 協働推進室の業務内容・活動内容  
URL : [http://esd.okayama-u.ac.jp/promotion\\_center/activities/](http://esd.okayama-u.ac.jp/promotion_center/activities/)

### 基準領域 2 教職を担うべき適切な人材の確保

- [資料2-1-1] 2020年度アドミッション・オフィス入試（AO入試）学生募集要項  
URL：<https://www.okayama-u.ac.jp/tp/admission/aobosyuyoko.html>
- [資料2-1-2] 高校生が岡大キャンパスで大学生と共に受ける授業  
URL：<https://www.okayama-u.ac.jp/tp/society/koudai06.html>
- [資料2-1-3] 教育学部における高校生を対象とした教育・研究活動支援
- [資料2-1-4] 2020年度推薦入試・社会人入試学生募集要項（閲覧用）  
URL：<https://www.okayama-u.ac.jp/tp/admission/suisenshakaibosyuyoko.html>  
短縮URL：<https://bit.ly/353zmvR>
- [資料2-2-1] 教員免許取得ガイド（2019年度入学者用）
- [資料2-2-2] 平成30年7月豪雨による災害について  
URL：<https://www.okayama-u.ac.jp/tp/profile/heavyrain.html#more>
- [資料2-2-3] 『2015年度岡山大学第6回学生生活実態調査報告書』

### 基準領域3 教職へのキャリア・サポート

- [資料3-1-1] 平成25年度及び平成30年度学部卒業者の教員採用試験受験率・教員就職率・教員志望率
- [資料3-1-2] 教師教育開発センター概要図
- [資料3-1-3] 教師力養成演習受講者数
- [資料3-1-4] 令和元年度教職ガイダンス（掲示）
- [資料3-1-5] 平成31年度オリエンテーションスケジュール
- [資料3-1-6] 留年学生及び修得単位数の少ない学生への履修指導及び修学状況等の調査について
- [資料3-1-7] 講座等における各種オリエンテーションや合宿研修等を活用した取り組み
- [資料3-1-8] ガイダンス科目「学問の方法（各講座担当コマ）」における学生の教職への意欲向上や適性を把握する講座の取り組み
- [資料3-1-9] 講座における学生の教職への志望状況の把握と指導上の活用
- [資料3-1-10] 講座における卒業生の就職状況の把握
- [資料3-1-11] 講座における教員等採用候補者選考試験対策の取り組み
- [資料3-2-1] 教育学研究科・教育学部の管理・運営体制
- [資料3-2-2] 教育学部建物平面図
- [資料3-2-3] 授業評価アンケート（学生用Web入力画面）
- [資料3-2-4] 2019年度教育実習・特別支援教育実習・養護実習 事前・事後指導計画
- [資料3-2-5] 学生支援窓口一覧  
URL：<https://www.iess.ccsv.okayama-u.ac.jp/koudai-shien/wp-content/uploads/sites/5/2019/04/7ddbc51a5f75463a8c57682f800f4333-2.pdf>  
短縮URL：<https://bit.ly/2st9wDZ>
- [資料3-2-6] 保健管理センター・学生相談室ホームページ  
URL：<http://www.okayama-u.ac.jp/user/hokekan/riyou.html>  
URL：<https://www.iess.ccsv.okayama-u.ac.jp/koudai-shien/soudan/>
- [資料3-2-7] 2017年度・2018年度「教採集中セミナー」実施状況
- [資料3-2-8] 2018年度教員採用試験説明会 実施状況

#### 基準領域4 大学教育の一環としての教員養成カリキュラムの運営

- [資料4-1-1] FD研修会資料「2014年ESDに関するユネスコ世界会議について」
- [資料4-1-2] 平成31年度教育学部シラバス「教育の制度と社会」  
URL: <https://gs.okayama-u.ac.jp/ex/index.html> (授業科目入力)
- [資料4-1-3] 2019 Global Conference on Teacher Education for Sustainable Developmentの案内  
URL: <http://ceteesd.ed.okayama-u.ac.jp/>
- [資料4-1-4] 2019年度岡山県北地域教育プログラム案内  
URL: <https://edu.okayama-u.ac.jp/faculty/?action>
- [資料4-1-5] 学校づくりと地域づくりの持続可能な好循環を促す教員養成～教育学部・岡山県北地域教育プログラム～  
URL: <https://sdgs.okayama-u.ac.jp/efforts/detail.php?seq=67>
- [資料4-1-6] 教科内容構成指導法ハンドブック
- [資料4-1-7] FD研修会資料「教員養成教育における教科内容構成学構築の必要性和本学部の取り組み」
- [資料4-2-1] 平成31年度教育学部シラバス「教育実習Ⅰ～Ⅲ」  
URL: <https://gs.okayama-u.ac.jp/ex/index.html> (授業科目入力)
- [資料4-2-2] 岡山大学教育学部『平成31年度教育実習Ⅰの手引き』
- [資料4-2-3] 岡山大学 Moodle  
URL: <https://moodle.el.okayama-u.ac.jp/>  
URL: <http://www.momo.cs.okayama-u.ac.jp/~sasakura/jikken/2018/MoodleQ.pdf>  
短縮 URL: <https://bit.ly/37gIyhE>
- [資料4-2-4] 教職ガイダンスの案内, 社会科授業研究会の案内
- [資料4-2-5] 平成31年度教育学部シラバス「教職実践インターンシップⅠ・Ⅱ」  
URL: <https://gs.okayama-u.ac.jp/ex/index.html> (授業科目入力)
- [資料4-2-6] 課題探究型授業の実践事例(中等数学科指導法開発A)
- [資料4-2-7] 講義室の設備設置状況

#### 基準領域5 子どもの教育課題と大学教育との関連づけ

- [資料5-1-1] 平成23～27年度文部科学省特別経費事業「先進的教員養成プロジェクト」中間報告会・シンポジウム配付資料「H25 教職実践インターンシップの成果と課題」
- [資料5-1-2] 教育学部教育実習改革ワーキンググループ第5回会議資料
- [資料5-2-1] 平成30年度教職実践インターンシップ・教育実習反省会資料
- [資料5-2-2] スクールボランティアのご案内  
URL: [https://www.okayama-u.ac.jp/user/cted/school\\_volunteer/3.html](https://www.okayama-u.ac.jp/user/cted/school_volunteer/3.html)
- [資料5-2-3] 岡山大学スクールボランティアフェア2017開催案内  
URL: [http://www.okayama-u.ac.jp/user/cted/event/index\\_id2.html](http://www.okayama-u.ac.jp/user/cted/event/index_id2.html)
- [資料5-3-1] 『授業力パワーアップセミナー報告書』2019年3月
- [資料5-3-2] 岡山CST養成プログラム(CST岡山)―学生CST養成プログラムのご案内―
- [資料5-3-3] 岡山理数系教員(CST)養成拠点構築事業実施報告書(平成30年度)